

情報コンテンツ制作ソフト

シンクボード[®]
ThinkBoard

L シリーズ *Office for School*

操作マニュアル

ご使用になる前
にお読みください。

Princeton

kjs 開発
(株)教育情報サービス

目次

1. 動作環境	4
2. 周辺機器	5
3. 基本用語	6
4. インストールの手順	7
(1). 制作システムのインストール	
(2). Windows の設定	
(3). 画面解像度の設定	
5. TB ファイル 制作手順 簡単ガイド	16
< TB ファイルを構成する「ブロック」を作る >	
1. 画面をキャプチャする	
・予め作成している画像をドラッグ&ドロップで取り込む	
・背景を「ホワイトボード」、「黒板」、「グリッド線」にする	
・「強力キャプチャ機能」(プルダウンメニューなどをキャプチャする)	
2. 音声を取り込まれているかテストをする	
3. 実際に音声と手書き描画を記録する	
4. 作成した「ブロック」をチェックする	
5. 作成した「ブロック」を保存する	
6. 「ブロック」が保存されていることを確認する	
< ブロックをTBファイルに変換する >	
7. ブロックの「書き出し」をする	
・書き出し形式について	
8. 制作ブロック一覧内の「ブロックを削除」する	
・TB ファイルを制作ブロック一覧に読み込む(再利用)	
6. 画面構成とボタンの動作	32
画面 1 <TOP メニュー>画面	
画面 2-1 <ブロック作成>画面 ※画面キャプチャ前	
画面 2-2 <ブロック作成>画面 ※画面キャプチャ後/記録前	
画面 2-3 <ブロック作成>画面 ※記録中	
画面 2-4 <ブロック作成>画面 ※記録終了後	
画面 3 <コンテンツ編集>画面	
・コンテンツ編集画面での右クリックメニューについて	
・書き出し形式について	
7. フレックス修正の手順	41
・ 記録直後のブロックの修正方法	
(a)ある区間の修正方法	
(b)あるポイントから最後まででの修正方法	
・ 過去に作成したブロックの修正方法	
(a)ある区間の修正方法	
(b)あるポイントから最後まででの修正方法	
8. 制作モード (イージーモード)	53
9. 制作モード (プレゼンモード)	55

10. 認証解除の方法	63
11. アンインストールの手順	64
12. ビューアーの操作方法	65

改訂履歴

版数	発行日	改訂履歴
第 1 版	平成 23 年 10 月 01 日	初版発行
第 2 版	平成 24 年 3 月 19 日	インストール・設定手順の修正、Undo 機能の追加に伴い説明項目を追記
第 3 版	平成 24 年 10 月 4 日	改訂履歴を追記、表紙のデザイン変更、目次、動作環境、インストール手順の修正“

1. 動作環境

ThinkBoard を使用するために必要な環境

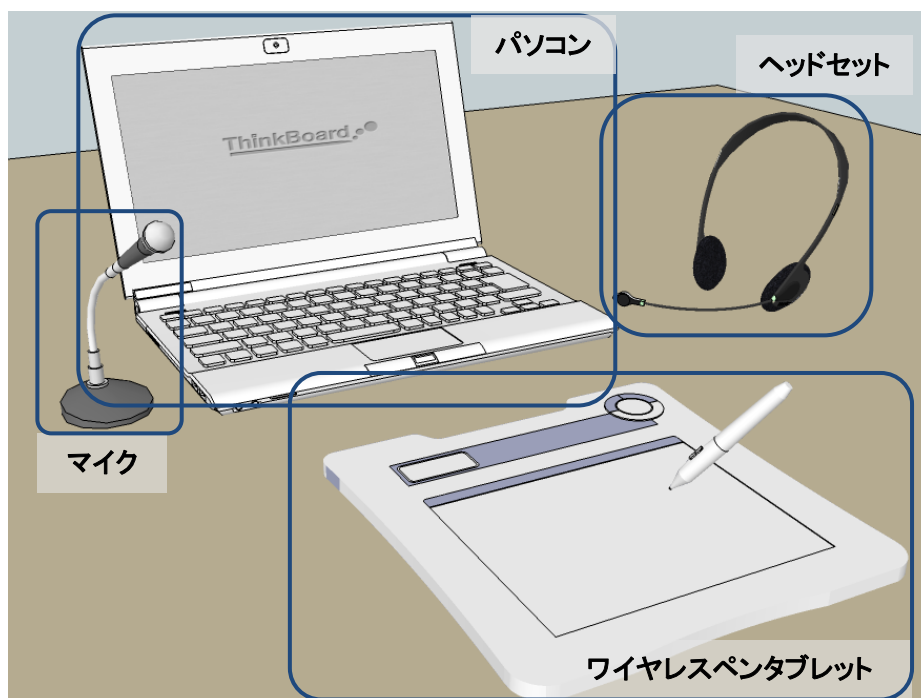
構成要素	条件
OS	日本語 Windows® XP, Windows® Vista, Windows® 7, Windows® 8 ※MacOS、Android には対応していません。
CPU	1.0GHz 以上 ※2GHz 以上を推奨
メモリ	Windows® XP : 1GB 以上 Windows® Vista, 7 : 2GB 以上 ※2GB 以上を推奨
HDD	空容量 100MB 以上 ※コンテンツ用データ領域は除く
ディスプレイ	解像度 1024 × 768 ピクセル、16bit High Color 以上 ※24bit Full Color を推奨
インターネット接続	ADSL 以上のブロードバンド回線推奨 ※インストール及び更新時に必要
周辺機器	・描画入力機器(ペンタブレット、電子黒板、デジタルペン、マウス等) ・音声入力機器(マイク(内蔵、外付け)、ワイヤレスマイク、ヘッドセット等) ・CD-ROMドライブ ・サウンドカードまたはオンボードサウンドデバイス
<p>< 登録商標について ></p> <p>※ Windows®は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。 ※ Pentium®は Intel Corporation の商標または登録商標です。 ※ その他の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。</p>	
<p><描画入力機器について></p> <p>■板型タブレット 検証済製品: プリンストンテクノロジー社製板型ペンタブレット、Wacom 社製板型ペンタブレットなど</p> <p>■液晶ペンタブレット 検証済製品: Wacom 社製液晶型ペンタブレット など</p> <p>■タブレット PC 検証済製品: 富士通社製タブレット PC、Panasonic 社製タブレット PC など</p> <p>■電子黒板 検証済製品: Panasonic 社製電子黒板、日立社製電子黒板 など</p> <p>■電子ペン(デジタルペン) ■マウスなど</p> <p><音声入力機器について></p> <p>■ヘッドセット 検証済製品: Sony 社製ヘッドセット、ELECOM 社製ヘッドセット、BUFFALO 社製ヘッドセット など</p> <p>■外付けマイク 検証済製品: ELECOM 社製マイク など</p> <p>■内蔵マイク</p>	

※Mac 上で動作する Windows での動作保障は対象外とさせていただきます。

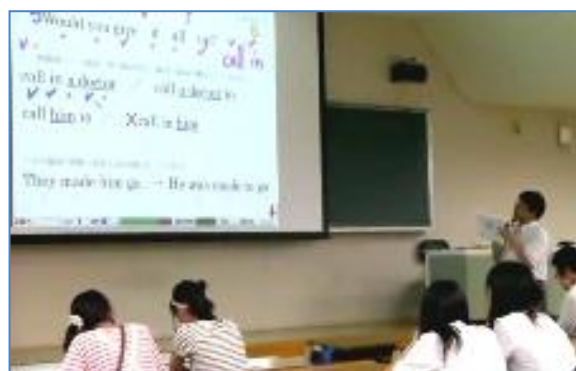
2. 周辺機器

ThinkBoard を使用するために必要な周辺機器

ThinkBoard ではコンテンツの作成に際し、音声をコンピュータに取り込むためのマイクまたはヘッドセット、コンピュータに指示を出したり、手書き描画で入力したりするためのペンタブレットまたはマウス等を入力機器として使用します。あらかじめ、周辺機器の設定を完了しておいてください。



<ワイヤレスペンタブレットでの制作シーン>



※周辺機器の接続方法およびセットアップの方法については、お使いのパソコン、接続する機器に付属のマニュアルなどをご覧ください。

3. 基本用語

ThinkBoard をご使用になる前にご一読ください。

ThinkBoard (シンクボード)	相手に見てもらいたい画像に音声と手書き描画をのせて、1つの作品として仕上げるための機能を統合したシステムです。
ThinkBoard ビューアー	ThinkBoard L シリーズで制作したコンテンツを視聴するために必要です。ThinkBoard L シリーズのすべてのエディションにはビューアーが含まれていますので、いずれかのエディションをインストールしていれば、ThinkBoard L シリーズで制作したコンテンツの視聴ができます。どのエディションもインストールしていない状態でコンテンツを再生する場合は、「ThinkBoard L シリーズ Free60 (無料)」をインストールしてください。 ThinkBoard 公式サイトからダウンロードできます。 http://www.thinkboard.jp/tbl/l_top.html ※「ThinkBoard ビューアー」は Windows 専用です。
ブロック	TB ファイルを構成する基本要素です。画像を取り込み、同時に音声と手書き描画を加えて、1つのデータにまとめたものです。
TB ファイル (ThinkBoard ファイル)	視聴者にお届けする形式のファイルです。複数のブロックを組み合わせた一つの集合体に、早わかり機能などをつけ、視聴者に届けやすい形式に圧縮したファイルです。

描画入力機器	<p>コンピュータに指示を出したり、手書き描画で入力したりする際に使用する周辺機器の1つです。ThinkBoard では、ペンタブレットでキーボードやマウス操作の代用ができ、さらに、ペンで紙に書く(描く)感覚でかんたんにフリーハンドの文字や図を入力することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■板型タブレット 検証済製品: プリンストンテクノロジー社製板型ペンタブレット、Wacom 社製板型ペンタブレット など ■液晶ペンタブレット 検証済製品: Wacom 社製液晶型ペンタブレット など ■タブレット PC 検証済製品: 富士通社製タブレット PC、Panasonic 社製タブレット PC など ■電子黒板 検証済製品: Panasonic 社製電子黒板、日立社製電子黒板 など ■電子ペン(デジタルペン) ■マウスなど
音声入力機器	<p>音声をコンピュータに取り込むための周辺機器です。ペンタブレットと組み合わせてご利用いただくことで、ThinkBoard の操作性を向上させるばかりでなく、TB ファイルをよりわかりやすく作成することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ヘッドセット 検証済製品: Sony 社製ヘッドセット、ELECOM 社製ヘッドセット、BUFFALO 社製ヘッドセット など ■外付けマイク 検証済製品: ELECOM 社製マイク など ■内蔵マイク

4. インストールの手順

※ご利用のパソコンの管理者権限のあるユーザアカウント(Administrators 等)で Windows へログインしてください。

(1) 制作システムのインストール

①



付属 CD-ROM を PC に挿入すると、下のメニューが表示されます。【インストール開始】ボタンをクリックしてください。

※インターネットに接続されている状態で実行してください。

※自動再生画面が表示された場合は、「TBM.EXE」をクリックしてください。

※メニュー画面が表示されない場合は、マイコンピュータ(コンピュータ)内の CD ドライブから「開く」を選択、フォルダ内のアイコン(TB Office)から実行してください。

※Windows Vista 以降の環境に ThinkBoard をインストールする場合は、セットアッププログラムを「管理者として実行」してインストールを行うことを推奨します。

※インストールする際、「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、【はい】をクリックしてください。

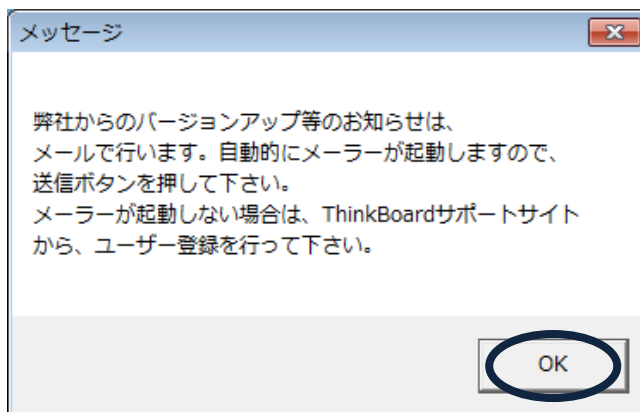
②



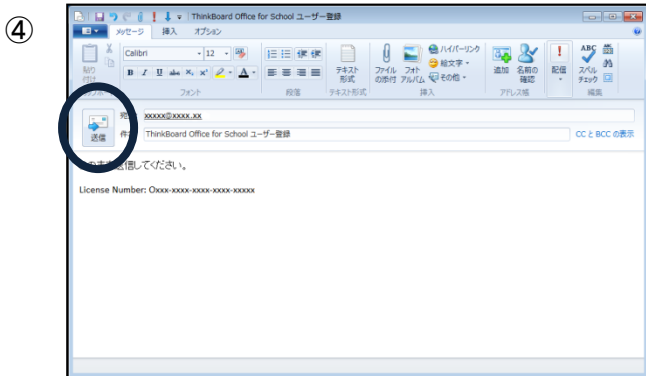
次の画面が表示されます。ライセンス番号を入力してください。

※以前、同じライセンス番号でインストールされたパソコンではご利用できなくなります。ご注意ください。

③



認証されると次の画面が表示されます。【OK】ボタンをクリックしてください。

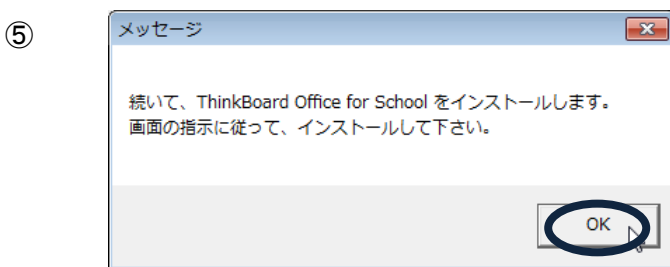


メーラーが立ち上がりますので、【送信】ボタンをクリックして、メール送信をしてください。

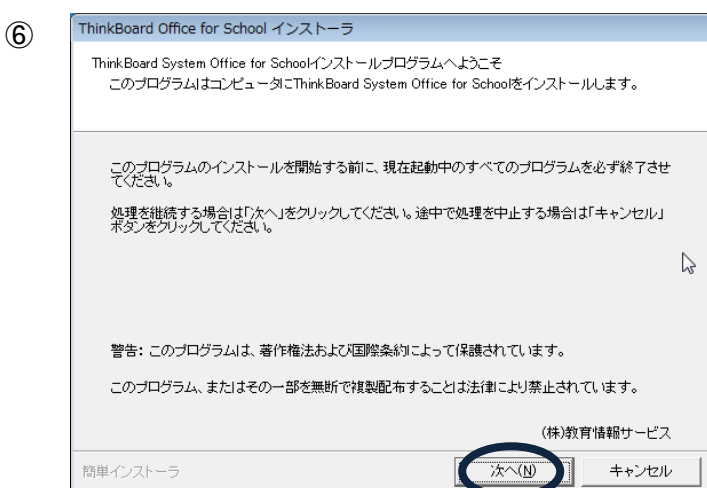
※予め入力されている内容は変更しないでください。

※お客様に入力いただく事項はございません。

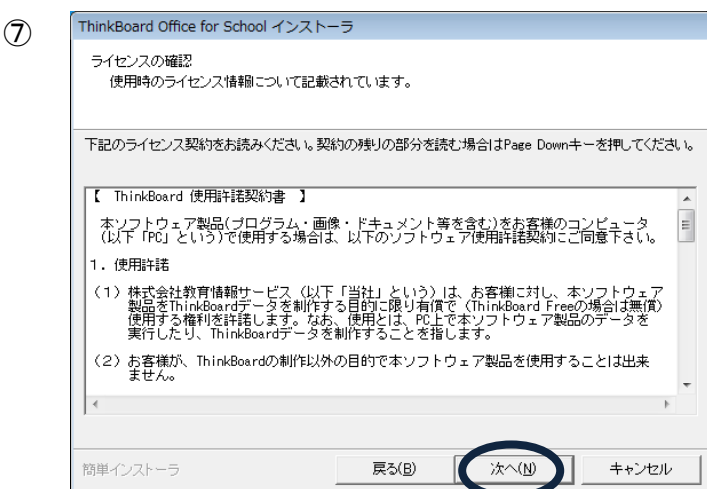
※この画面が表示される順番はお使いのパソコンにより変わる事がございます。



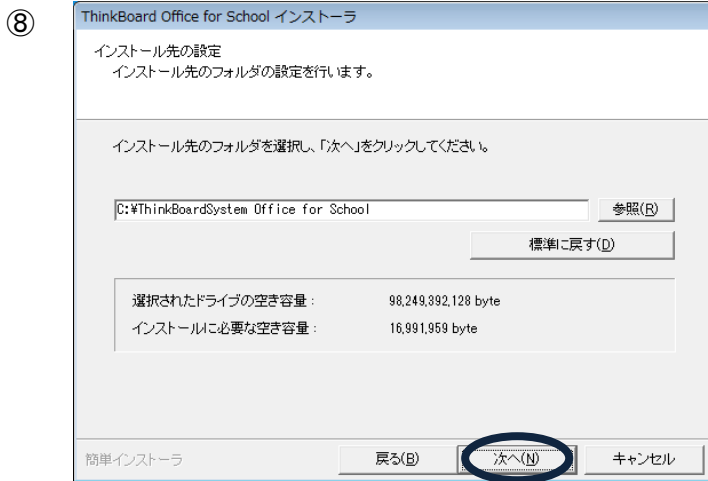
次の画面が表示されます。【OK】ボタンをクリックしてください。



【OK】ボタンをクリックすると、インストールを開始します。インストーラが起動し、次の画面が表示されますので、【次へ】ボタンをクリックします。

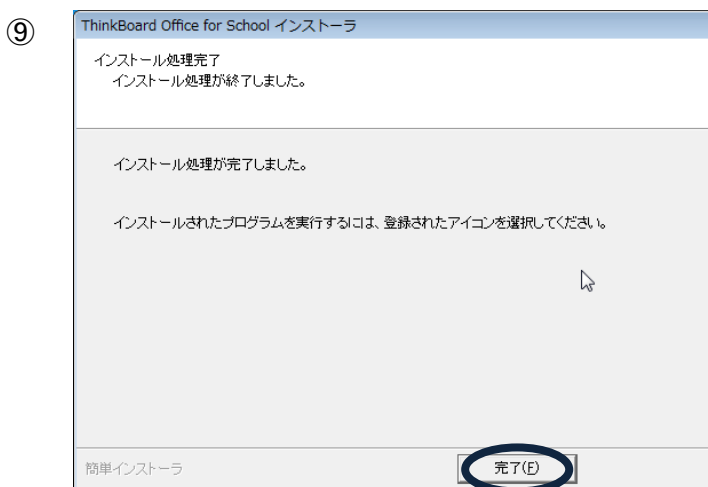


使用許諾契約書の内容を確認して、【次へ】ボタンをクリックします。



インストール先を確認し、【次へ】ボタンをクリックします。

※インストール先の設定の変更をしないでください。



インストール処理が終了すると、次の画面が表示されるので、【完了】ボタンをクリックします。



デスクトップに ThinkBoard のアイコンが表示されます。

<ThinkBoard のインストールが完了です>

(注意)



注) インストール完了後、TOP メニューの『UpdateCheck』ボタンで更新ファイル(機能追加等により随時提供)を適用し、最新の状態でご使用ください。

(2) Windows の設定

①. ペンタブレットのご利用について

Windows Vista, 7, 8 では、PC に最初からタブレットの制御命令が標準装備されており、描画を加える際に Windows 内の専用のペン描画機能が働いてしまう場合があります。そのため、**処理速度が遅れ、滑らかに描画・記録できないことがあります。**

この現象は、

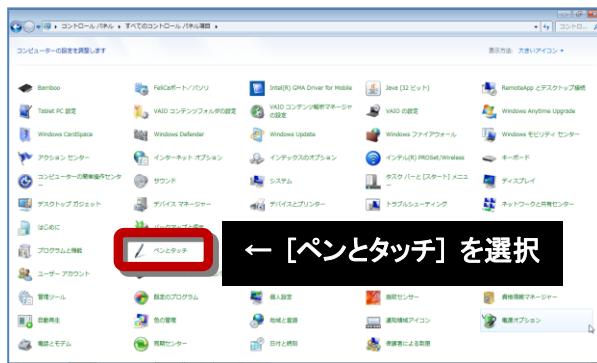
- ①ペンフリック機能
- ②プレス アンド ホールド機能

のどちらかあるいは両方を無効にすることで改善します。

I. 「ペンフリック機能」を無効にする方法

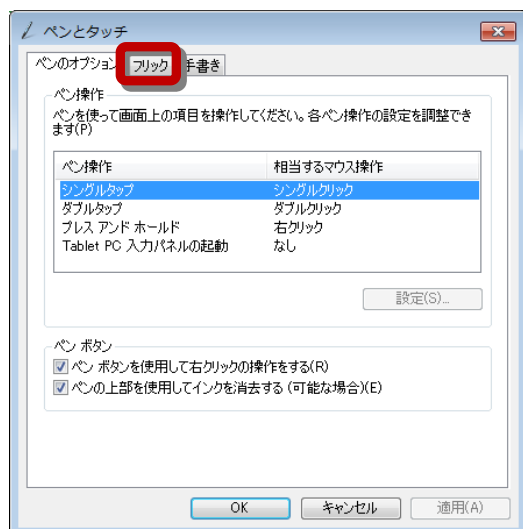
※ご使用のペンタブレットの「最新」のドライバがインストールされていることを確認してください。

①



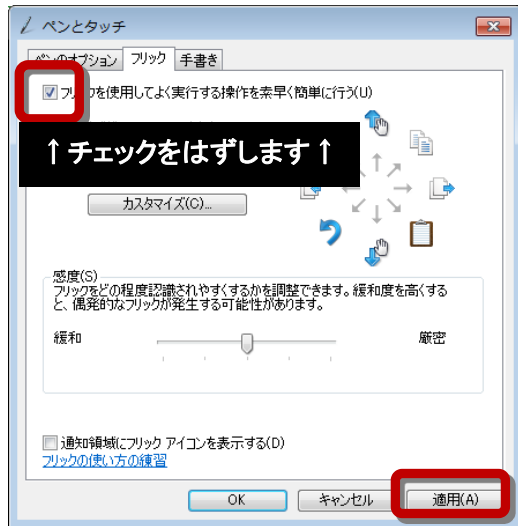
[スタート] → [コントロールパネル] → [ペンとタッチ (Vista:[ペンと入力デバイス])] を開きます。
(カテゴリ表示の場合は、[ハードウェアとサウンド] → [ペンとタッチ])

②



[ペンとタッチ]を選択すると、次の画面が表示されます。**[フリック]タブ**を選択してください。

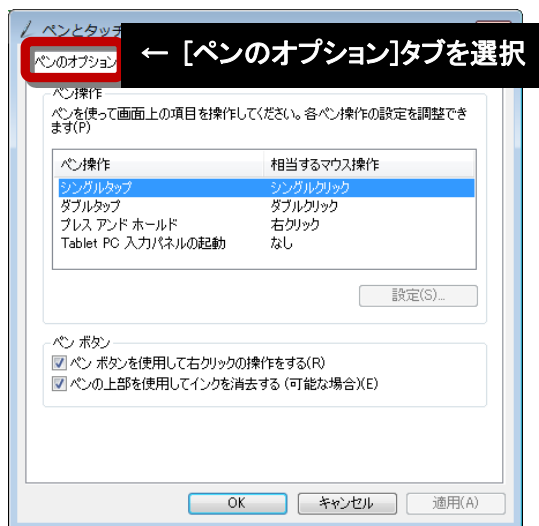
③



「フリックを使用してよく実行する操作を素早く簡単に行う」のチェックをはずし、[適用]で終了です。

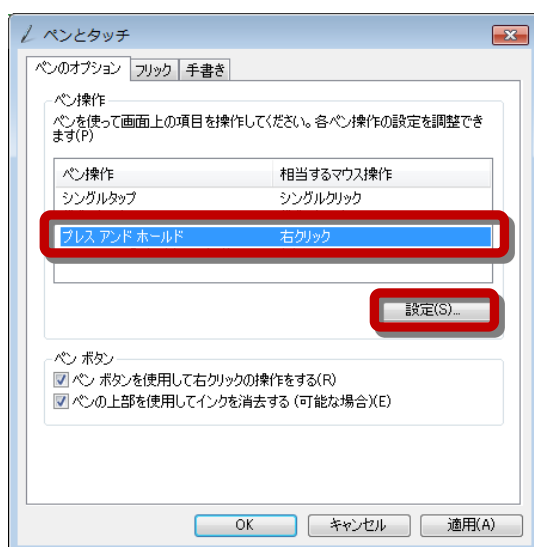
Ⅱ. 「プレス アンド ホールド機能」を無効にする方法

①



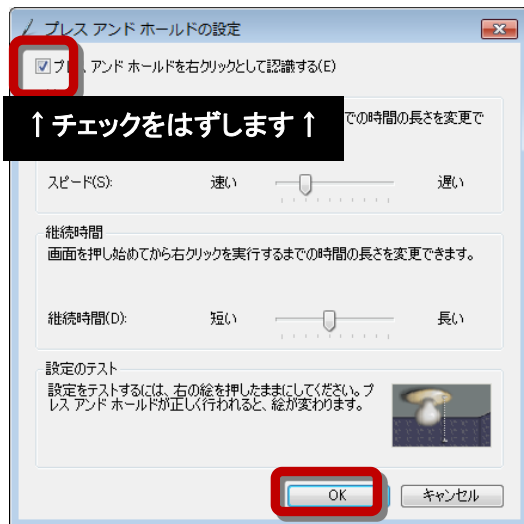
[スタート] → [コントロールパネル] → [ペンとタッチ (Vista: [ペンと入力デバイス])] を開きます。

②



[ペンのオプション]タブのペン操作[プレス アンド ホールド]を選択して、[設定]ボタンをクリックします。

③



「プレス アンド ホールドを右クリックとして認識する」のチェックをはずし、[OK]で終了

※設定完了後は、「設定変更の再確認」をした上で「再起動」を行いご確認ください。

②コンテンツを制作・視聴する際に

コンテンツを制作・視聴する際に、お使いのパソコンによっては、微妙なペンのチラつきが生じる場合があります。次の手順に沿って、①Windows Aero 機能を無効にする もしくは、②パフォーマンスオプションの視覚効果の設定変更 を行ってください。

※ファイアウォールが 2 重に起動していないかご確認ください。

①Windows Aero 機能を無効にする。

1. デスクトップのアイコンやガジェットなど何もないところで右クリックし、「個人設定」をクリック
2. Aero テーマにあるもの以外を選択し(Windows7 ベーシック等)クリック

②パフォーマンスオプションの設定を変更する。

1. [スタート]ボタンをクリック
2. [コンピュータ]右クリック
3. [プロパティ] ボタンをクリック
4. [システムの詳細設定]をクリック(左側のリンク)
5. システムのプロパティウィンドウ内の[詳細設定]タブをクリック
6. パフォーマンスの[設定]をクリック
7. パフォーマンスオプションウィンドウ内の[詳細設定]タブをクリック
8. 項目内の[プロセッサのスケジュール]項目で[バックグラウンドサービス]にチェックを入れる
9. [適用(A)]をクリックする
10. パフォーマンスオプションウィンドウ内の[視覚効果]タブをクリック
11. [ウィンドウとボタンに視覚スタイルを使用する]のチェックを外す
12. [OK]ボタンをクリックしシステムのプロパティウィンドウを閉じる

③ フォントサイズ(DPI)の設定について

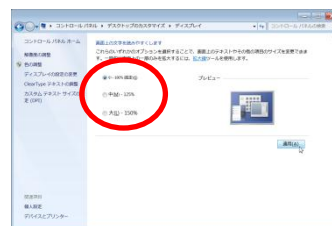
お使いのパソコンによっては、画面上の文字サイズを大きく表示している場合があります。
この設定が有効なパソコン上では、ThinkBoard の画面表示が崩れ、正常に操作できませんので、設定を変更していただく必要があります。



設定の変更手順

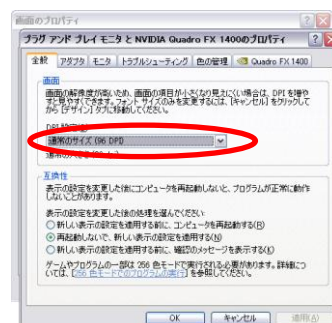
・ Windows Vista、7、8 :

- ① [コントロールパネル]を表示
- ② コントロールパネルの[画面の解像度の調整]をクリック
※クラシック表示の場合は、[個人設定]→[画面の設定]となります
- ③ 左側のウィンドウで[フォントサイズ(DPI)の調整]をクリック
※管理者のパスワードを求められた場合は、パスワードを入力するか、確認情報を入力する
- ④ [DPI スケール]ダイアログボックスで[既定のスケール(100%)]をクリックし、[OK]をクリック
- ⑤ すべてのプログラムを閉じ、Windows を再起動する



・ Windows XP :

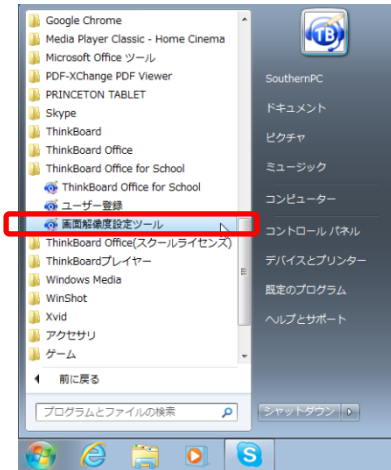
- ① [コントロールパネル]を表示
- ② コントロールパネルの[画面]をクリック
- ③ [画面のプロパティ]ウィンドウ内の[設定]タブをクリック
- ④ [詳細設定]ボタンをクリック
- ⑤ [モニターと"ご使用の"グラフィックチップのプロパティ]ウィンドウの全般タブが表示される
- ⑥ [画面]の「DPI 設定」で「通常サイズ(96 DPI)」を選択する
- ⑦ すべてのプログラムを閉じ、Windows を再起動する



(3) 画面解像度の設定

ThinkBoard Office は、お使いのパソコンの画面サイズに合わせたコンテンツの作成が可能です。
また、任意の画面解像度でコンテンツを作成することも可能です。
以下に、ThinkBoard コンテンツを制作する画面解像度の設定手順を記します。

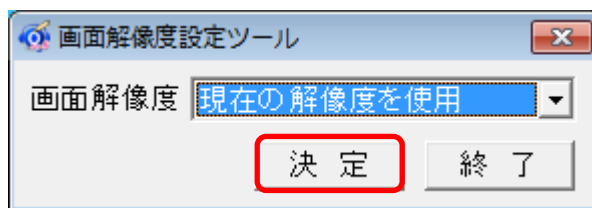
①



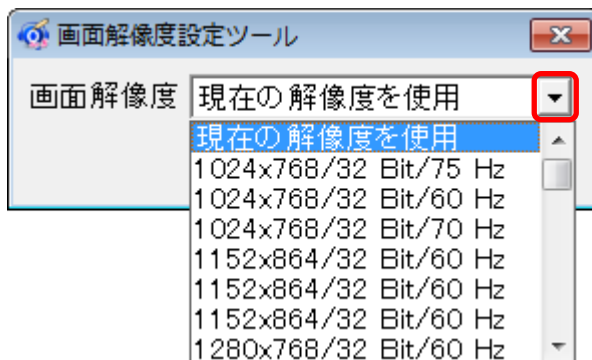
画面解像度設定ツールを起動します。

※【スタート】→【すべてのプログラム】→
【ThinkBoard Office for School】→【画面解像度
設定ツール】の順にクリックします。

②



表示されている画面解像度で良い場合は、
「現在の解像度を使用」のまま「決定」をクリック
してください。



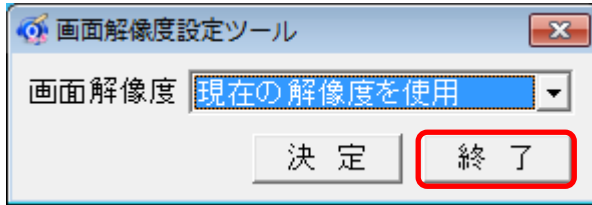
任意の画面解像度を選択する場合は、▼をク
リックすることで、そのパソコンで使用できる解像
度一覧が表示されますので、そこから選択して
下さい。

③



確認メッセージが表示されますので、「OK」をク
リックしてください。

④



「終了」をクリックし、解像度設定画面を終了します。

※画面解像度一覧にリストアップされる解像度は、お使いになるパソコンによって表示される内容が異なります。

※設定できる解像度は以下の範囲内です。

下限 1024 x 768 ピクセル 16 bit カラー以上
 上限 1920 x 1080 ピクセル 16 bit カラー以上

※画面解像度一覧内に表示される項目について



1024×768…画面解像度(縦横比)。

主に、4:3、16:9、16:10 の 3 種類が存在。
 旧来は横:縦 = 4:3 が主流であったが、近年では地上波デジタル放送対応テレビの採用している 16:9 を中心としたワイドタイプが多くなっています。

32Bit…画面表示色。

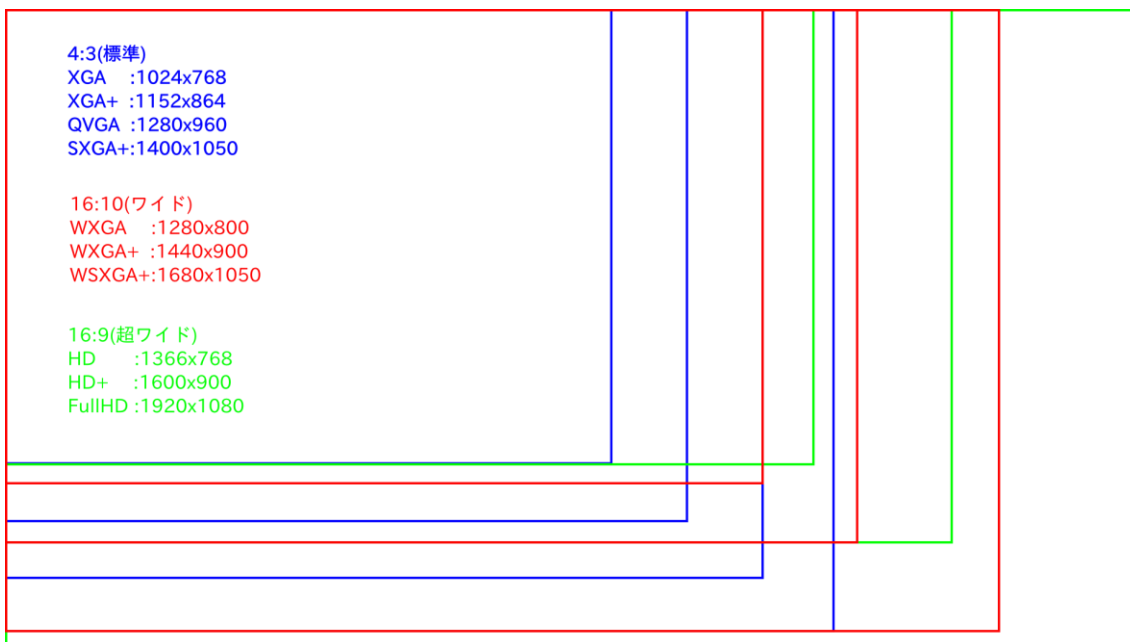
画面上の 1 つのピクセルで、何色まで表示可能であることを示す。
 16Bit は、65,536 色まで表示可能。
 32Bit は、16,777,216 色まで表示可能。

75Hz…リフレッシュレート。

単位時間あたりどれだけリフレッシュするかという値。リフレッシュレートが高いほど画面のちらつきが少なくなります。

お使いのパソコンで、現在のディスプレイ設定値を確認するには、
 [スタート] ボタン をクリックし、[コントロール パネル]、[デスクトップのカスタマイズ]、[個人設定]、[ディスプレイの設定] の順にクリックします。
 リフレッシュレートを確認するには、さらに [詳細な設定] をクリックして下さい。

・代表的な解像度 (参考)



以上で ThinkBoard を快適にお使いいただくための設定は完了です。

5. TB ファイル 制作手順 簡単ガイド

<TB ファイルを構成する「ブロック」を作る>

1. 画面をキャプチャする

①ThinkBoard を起動し、制作モードで【ノーマル】を選択し、【制作】ボタンをクリックします。

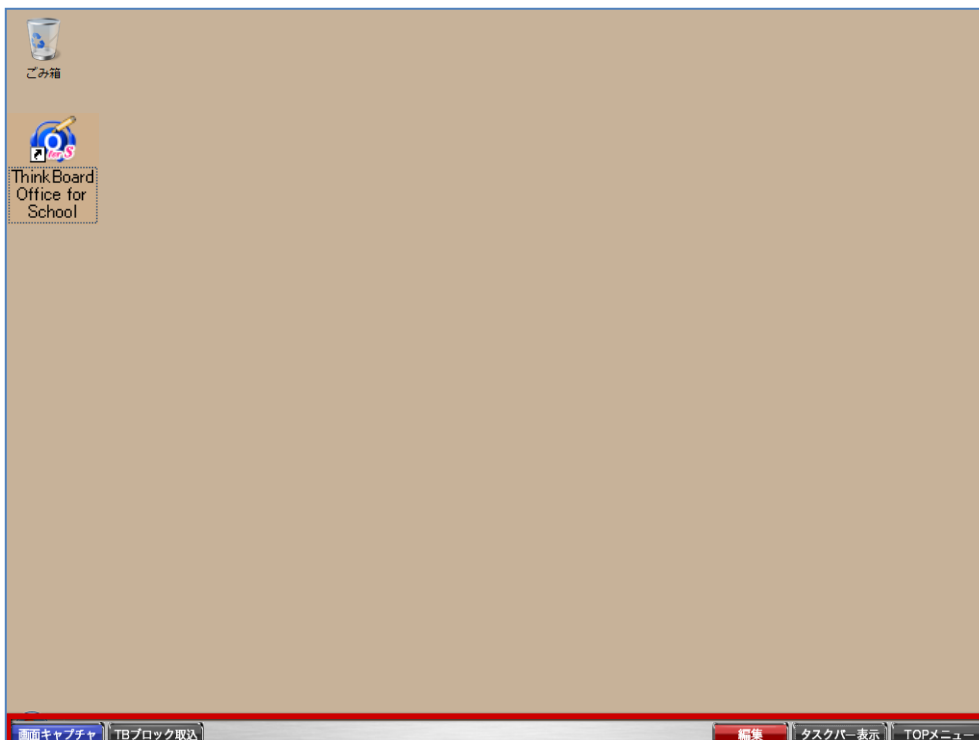
- ・起動方法 1: デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックし起動する。
- ・起動方法 2: スタートメニューから起動する。

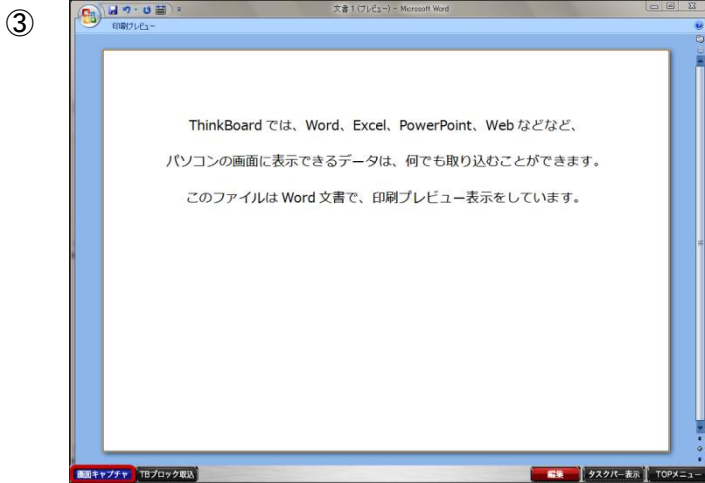


(【スタート】→【すべてのプログラム】→【ThinkBoard Office for School】の順にクリックします。)



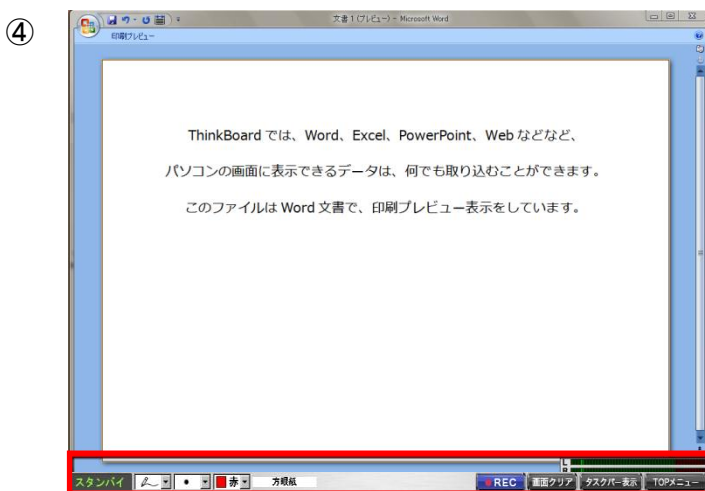
②お使いのパソコンのタスクバーの上に ThinkBoard 操作バーが重なって表示されます。(お使いのパソコンのタスクバーを表示させたいときは、ThinkBoard 操作バーの「タスクバー表示」をクリックしてください。)





パソコンに説明に使用する画面を表示し、操作バーの【画面キャプチャ】をクリックします。

※パソコンのモニターに表示できるものであれば、キャプチャすることにより画像として ThinkBoard に取り込み背景画面にすることが可能です。



表示した画面がキャプチャされ、必要な画像が ThinkBoard に取り込まれ、記録可能になります。

※画像が取り込まれると、操作バーが左のように切り替わります。

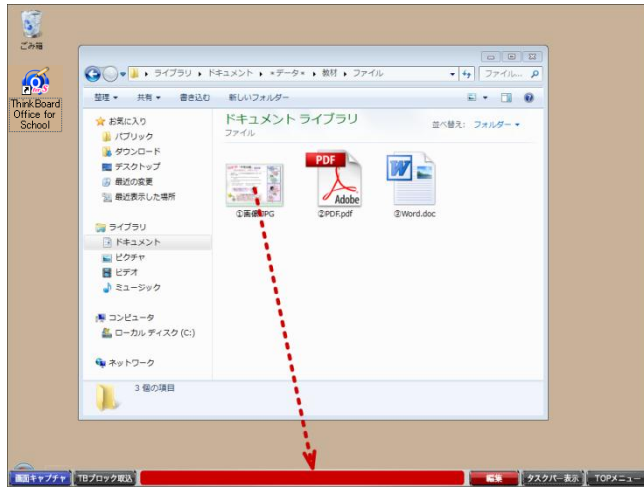
※画面キャプチャ後（記録前）に下書き（プリライト）ができます。

【画面キャプチャ】ボタンをクリックすると描画が可能になります。事前の下書き（プリライト）が必要な場合は、この状態（スタンバイ状態）で描画しておくことができます。

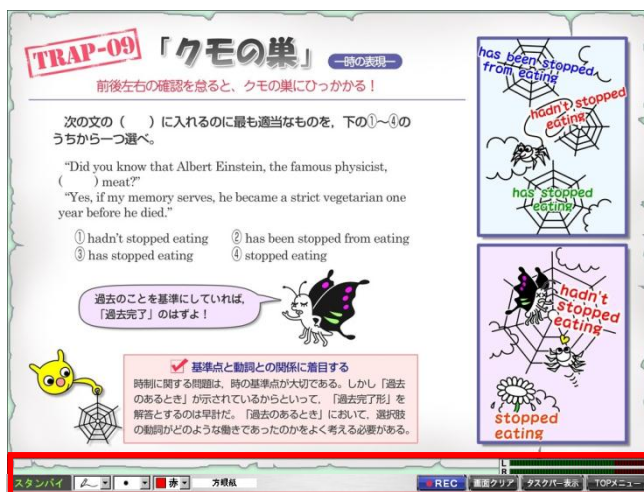
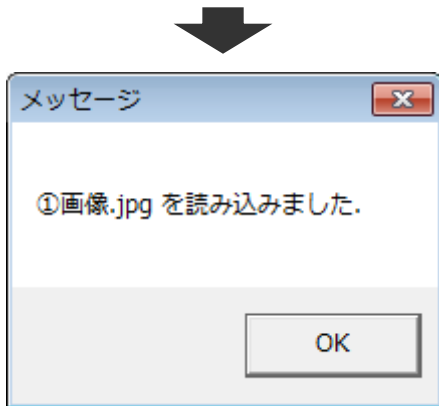
※画面キャプチャには、次の方法もあります。

<予め作成している画像をドラッグ&ドロップで取り込む>

前々ページ②の続きです。 ※画像を背景に用いる場合に有効で、予め画像を用意しておく必要があります。



この部分に画像をドラッグ&ドロップします。



前々ページ②の続き

説明に使用する画像を表示します。取り込む画像ファイルをクリックし、下段の ThinkBoard 専用バーヘドドラッグ&ドロップします。

画像をドラッグ&ドロップすると、左の画面が表示されますので、【OK】ボタンをクリックします。

選択した画像が表示されたら、ThinkBoard に画像が取り込まれたこととなります。

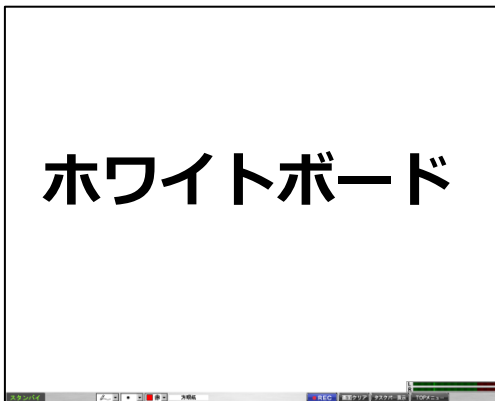
※操作バーが左のように切り替わります。

※画像ファイルのサイズが 1024 × 768 ピクセルより小さい場合は画像の周囲に余白ができます。

<背景を「ホワイトボード」、「黒板」、「グリッド線」にする>

画面	変更方法
ホワイトボード	[Z]キーを押すと、背景画像が【ホワイトボード】になった状態で画面キャプチャされます。
黒板	[X]キーを押すと、背景画像が【黒板】になった状態で画面キャプチャされます。
グリッド線	【画面キャプチャ】ボタンをクリックし画面をキャプチャした後、[F12]キーを押すと背景にグリッド線が表示されます。 種類：方眼紙、レポート横罫、レポート縦罫、英語練習ノート、漢字練習帳、原稿用紙(10×10)、五線譜

背景を「ホワイトボード」にする



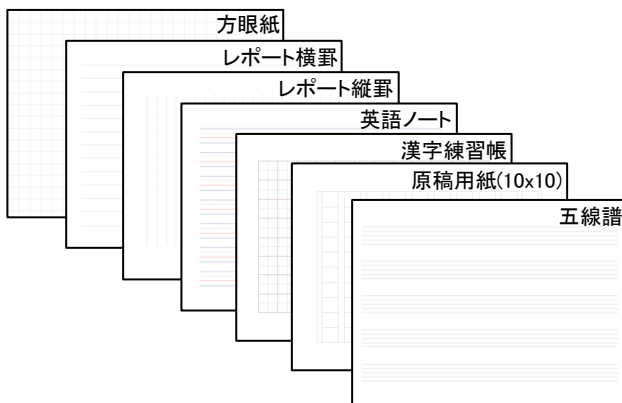
[Z]キーを押すと、背景画像が【ホワイトボード】になった状態で画面キャプチャされます。

背景を「黒板」にする



[X]キーを押すと、背景画像が【黒板】になった状態で画面キャプチャされます。

背景を「グリッド線」にする



背景を【ホワイトボード】にした後、[F12]キーを押すと背景にグリッド線が表示されます。

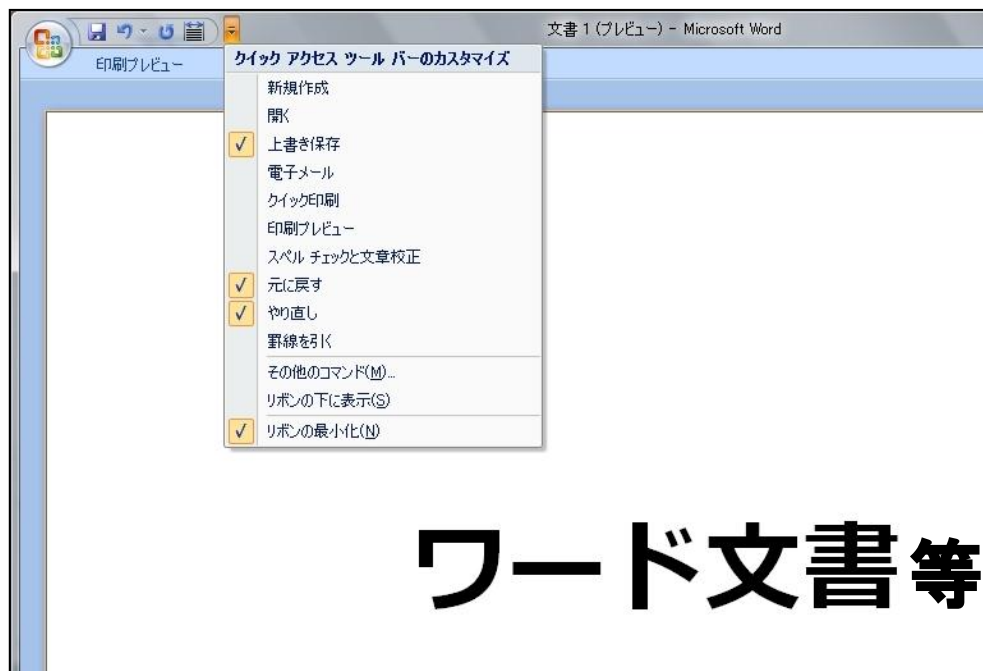
グリッド線は、F12 キーを押すごとに種類が変わります。

【F11】キーを押すとガイド罫線が表示され、再生時にマス目が表示されません。

※ホワイトボード、黒板の機能について所定のキーを押しても反応がない場合は、画面下部にあります ThinkBoard 専用操作バーをクリックまたはタップした後に、所定のキーを押してください。(ThinkBoard をアクティブの状態にして下さい。)

<「強力キャプチャ機能」(プルダウンメニューなどをキャプチャする)>

下の画面のような「プルダウンメニュー」を含む表示画面をキャプチャする時に有効です。



<キャプチャ方法>

ThinkBoard を起動し、キャプチャしたい画面を表示した状態で、[Ctrl]キーを押すと、表示画面がキャプチャされ、『スタンバイ状態』になります。

2. 音声を取り込まれているかテストをする

記録を始める前に音声テストをします。ヘッドセットを着けて、マイクに向かって声を出し確認をしてください。適度な音量の目安は、ゲージのインジケーターが右の赤い部分に届く程度です。

TRAP-09 「クモの巣」 —時の表現—

前後左右の確認を怠ると、クモの巣にひっかかる！

次の文の () に入れるのに最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

“Did you know that Albert Einstein, the famous physicist, () meat?”
“Yes, if my memory serves, he became a strict vegetarian one year before he died.”

① hadn't stopped eating ② has been stopped from eating
③ has stopped eating ④ stopped eating

過去のことを基準にしていれば、「過去完了」のはずよ！

基準点と動詞との関係に着目する
時制に関する問題は、時の基準点が大切である。しかし「過去のあるとき」が示されているからといって、「過去完了形」を解答とするのは早計だ。「過去のあるとき」において、選択肢の動詞がどのような働きであったのかをよく考える必要がある。

インジケーター
eating

スタンバイ 赤 方眼紙 REC 画面クリア タスクバー表示 TOPメニュー

※お使いの音声入力機器に合わせて適正な入力レベルになるよう調節してください。

3. 実際に音声と手書き描画を記録する

①【●REC】ボタンをクリックすると、記録がはじまります。(操作バー左下の表示が「スタンバイ」になっています。)

TRAP-09 「クモの巣」 一時の表現

前後左右の確認を怠ると、クモの巣にひっかかる!

次の文の () に入れるのに最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

“Did you know that Albert Einstein, the famous physicist, () meat?”
 “Yes, if my memory serves, he became a strict vegetarian one year before he died.”

① hadn't stopped eating ② has been stopped from eating
 ③ has stopped eating ④ stopped eating

過去のことを基準にしていれば、「過去完了」のはずよ!

✓ 基準点と動詞との関係に着目する
 時制に関する問題は、時の基準点が大切である。しかし「過去のあるとき」が示されているからといって、「過去完了形」を解答とするのは早計だ。「過去のあるとき」において、選択肢の動詞がどのような働きであったのかをよく考える必要がある。

スタンバイ REC 画面クリア タスクバー表示 TOPメニュー

②ペンタプレット(またはマウス)での、手書き描画とマイクの音声で説明をします。音声、手書きした内容、ポイントの動きが同時に記録されていきます。(操作バー左下の表示が「記録中」になっています。)

TRAP-09 「クモの巣」 一時の表現

前後左右の確認を怠ると、クモの巣にひっかかる!

次の文の () に入れるのに最も適当なものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

“Did you know that Albert Einstein, the famous physicist, () meat?”
 “Yes, if my memory serves, he became a strict vegetarian one year before he died.”

① hadn't stopped eating ② has been stopped from eating
 ③ has stopped eating ④ stopped eating

過去のことを基準にしていれば、「過去完了」のはずよ!

✓ 基準点と動詞との関係に着目する
 時制に関する問題は、時の基準点が大切である。しかし「過去のあるとき」が示されているからといって、「過去完了形」を解答とするのは早計だ。「過去のあるとき」において、選択肢の動詞がどのような働きであったのかをよく考える必要がある。

記録中... 記録時間 00:05 終了 一時停止

③操作バーでペンの色、文字や線の太さの変更ができ、様々な線や円を描くことができます。

【終了】ボタンをクリックすると、このブロック(シーン)作成の完了です。



<操作バー>

※ペンの色、文字や線の太さ、線などの変更はショートカットキーでも可能です。ショートカットキーでの操作方は、次のページでご紹介しています。

※ペンの色、文字や線の太さ、線などの設定は、前回使用していた時の状態を引き継ぎます。

<「ペンタブレット」、「マウス」の操作方法>

ペンの使い方や消しゴムモードなどご確認ください。

入力装置	操作方法と動作
ペンタブレット	ペンをタブレットに当てて移動すると描画されます。
	ペンのボタンを押すと、消しゴムモードになり、タブレットに当てて移動すると、すでに描画した軌跡を消すことができます。もう一度ボタンを押すと消しゴムモードは終了します。
	消しゴムモードで[F11]キーを押すと、すでに描画した軌跡を一気に消去できます。
	タブレットからペンを浮かせて移動させると、ポインタが移動します。
マウス	左クリックしたまま移動させてラインや文字を描画します。
	右クリックすると消しゴムモードになり、すでに描画した軌跡を消すことができます。もう一度右クリックすると消しゴムモードは終了します。

※上記の操作は一般的なものです。お買い上げの商品の種類や設定によって異なる場合もあります。

<ショートカットキー操作方法>

スタンバイ時、または、記録中の操作は、ThinkBoard 操作バーだけでなく、キーボードでも可能です。

		キー操作	他の方法	説明
記録時／再記録時	記録	Shift + R	操作バー	記録を開始します
	一時停止／再開	Shift + P	操作バー	記録を一時停止／再開します
	終了	Shift + S	操作バー	記録を終了します
文字・線	細い	F1	操作バー	細い文字・線が書けます
	普通	F2	操作バー	普通の大きさの文字・線が書けます
	太い	F3	操作バー	太い文字・線が書けます
ペン	文字	1	操作バー	文字が描画できます
線	マーカー	2	操作バー	マーカーが引けます
	直線	3	操作バー	直線が引けます
	二重線	4	操作バー	二重線が引けます
	点線	5	操作バー	点線が引けます
	波線	6	操作バー	波線が引けます
円	円	7	操作バー	中心、半径を決めると、円を描けます
矩形	長方形	8	操作バー	始点、終点を決めると、長方形を描けます
色	黒	F5	操作バー	文字・線が黒色になります
	赤	F6	操作バー	文字・線が赤色になります
	青	F7	操作バー	文字・線が青色になります
	緑	F8	操作バー	文字・線が緑色になります
	桃	P	操作バー	文字・線が桃色になります
	黄	Y	操作バー	文字・線が黄色になります
	白	W	操作バー	文字・線が白色になります
消しゴム	小	E	-	小さな消しゴムを表示します
	普通	F9	ペン	普通の大きさの消しゴムを表示します
	巨大	F10	-	大きな消しゴムを表示します

カーソル	画像の切り替え	Ctrl	—	「マジック」→「チョーク」→「ポインタ」の順に切り替わります。
背景	黒板	X	—	背景が黒板画面になります
	ホワイトボード	Z	—	背景がホワイトボードになります
	ガイド罫線	F11	—	背景にガイド罫線が表示されます ※再生時にはガイド罫線は表示されません
	グリッド線	F12	—	背景が方眼紙、レポート横罫、レポート縦罫、英語練習ノート、漢字練習帳、原稿用紙(10×10)、五線譜になります ※再生時に表示されます
<p>※<ブロック制作>画面で、[X]キーを押すと、背景画像が「黒板」に変わった状態で、画面キャプチャされます。</p> <p>※<ブロック制作>画面で、[Z]キーを押すと、背景画像が「ホワイトボード」に変わった状態で、画面キャプチャされます。</p> <p>※スタンバイ状態、または、記録中に、F11 を押すと「ガイド罫線」が表示されます。</p> <p>※スタンバイ状態に、F12 を押すと「グリッド線」が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F12 キーを押すたびに表示が切り替わります。 デスクトップ画面→方眼紙→デスクトップ画面→レポート横罫→デスクトップ画面→レポート縦罫→デスクトップ画面→英語練習ノート→デスクトップ画面→漢字練習帳→デスクトップ画面→原稿用紙(10×10)→デスクトップ画面→五線譜→(先頭に戻る) ・専用操作バーに表示されるグリッド線の種類をクリックし選択後、F12 キーでも表示出来ます。 				
修正時	あるポイント以降カット	Shift + T	—	ブロックのある区間、又はあるポイント以降を全てカットする場合に使います。 ※ブロックの修正時に利用します。マニュアルの「フレックス修正の手順」をご覧くださいの上でご利用ください。
	あるポイントに挿入	Shift + Y	—	ブロックの修正時に、上書き修正をせずに、あるポイントに追加挿入したい場合に使います。 ※ブロックの修正時に利用します。マニュアルの「フレックス修正の手順」をご覧くださいの上でご利用ください。

※ホワイトボード、黒板の機能について所定のキーを押しても反応がない場合は、画面下部にあります ThinkBoard 専用操作バーをクリックまたはタップした後に、所定のキーを押してください。(ThinkBoard をアクティブの状態にしてください。)

4. 作成した「ブロック」をチェックする

【プレビュー】ボタンをクリックすると、作成したブロックが再生されます。

TRAP-09 「クモの巣」 一時の表現

前後左右の確認を怠ると、クモの巣にひっかかる！

次の文の () に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

“Did you know that Albert Einstein, the famous physicist, () meat?”
“Yes, if my memory serves, he became a strict vegetarian one year before he died.”

① hadn't stopped eating ② has been stopped from eating
③ has stopped eating ④ stopped eating

過去のことを基準にしていれば、「過去完了」のはずよ！

基準点と動詞との関係に着目する
時制に関する問題は、時の基準点が大切である。しかし「過去のあるとき」が示されているからといって、「過去完了形」を解答とするのは早計だ。「過去のあるとき」において、選択肢の動詞がどのような働きであったのかをよく考える必要がある。

スタンバイ | 赤 | 方眼紙 | REC | **プレビュー** | 保存 | 別名保存 | 画面クリア | タスクバー表示 | TOPメニュー

5. 作成した「ブロック」を保存する

【保存】ボタンをクリックすると、作成したブロックが保存されます。

※画面には記録中に手書きした描画などは表示されませんが、きちんと記録されています。

TRAP-09 「クモの巣」 一時の表現

前後左右の確認を怠ると、クモの巣にひっかかる！

次の文の () に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

“Did you know that Albert Einstein, the famous physicist, () meat?”
“Yes, if my memory serves, he became a strict vegetarian one year before he died.”

① hadn't stopped eating ② has been stopped from eating
③ has stopped eating ④ stopped eating

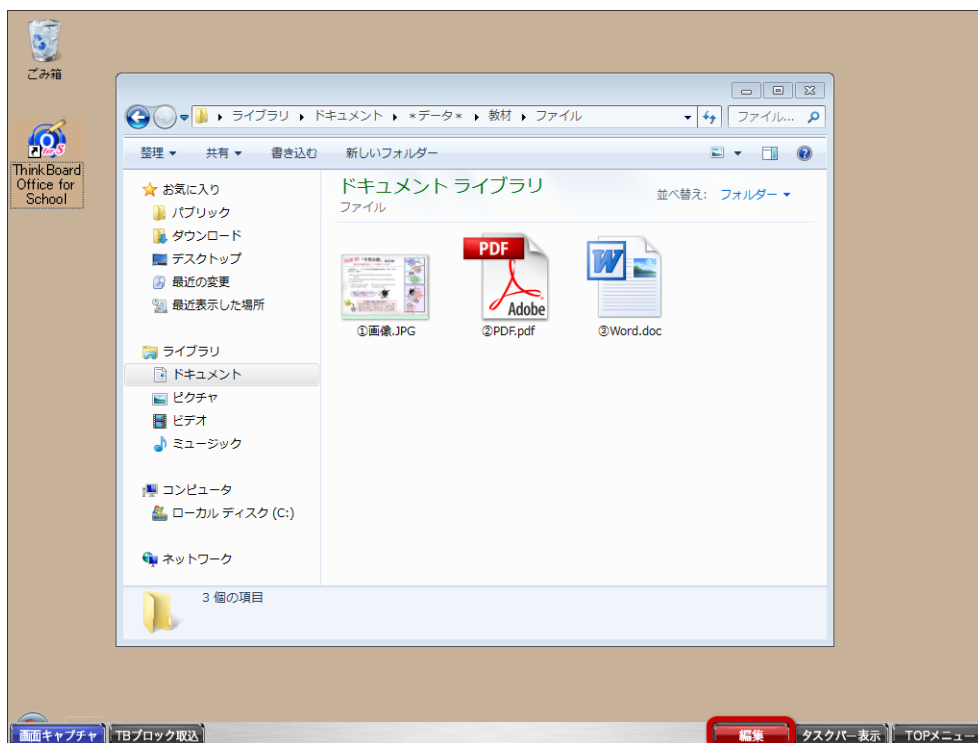
過去のことを基準にしていれば、「過去完了」のはずよ！

基準点と動詞との関係に着目する
時制に関する問題は、時の基準点が大切である。しかし「過去のあるとき」が示されているからといって、「過去完了形」を解答とするのは早計だ。「過去のあるとき」において、選択肢の動詞がどのような働きであったのかをよく考える必要がある。

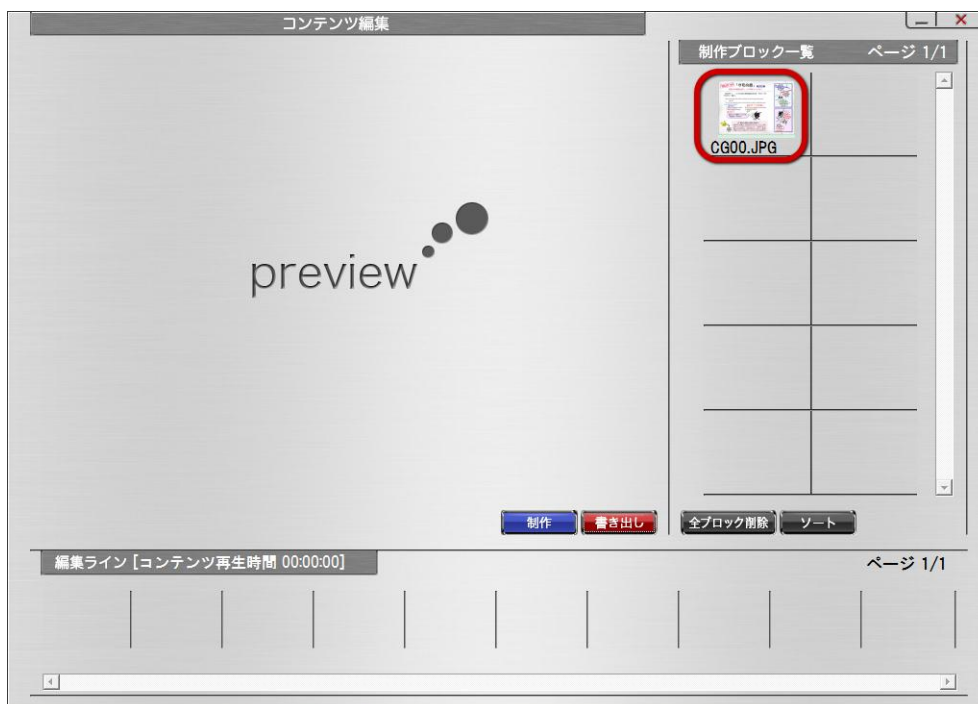
スタンバイ | 赤 | 方眼紙 | REC | プレビュー | **保存** | 別名保存 | 画面クリア | タスクバー表示 | TOPメニュー

6. 「ブロック」が保存されていることを確認する

①【編集】ボタンをクリックします。



②<コンテンツ編集>画面が表示されますので、先ほど保存した「ブロック」が登録されていることを確認してください。



引き続きブロックを作成する場合は、画面中ほどの【制作】ボタンで<ブロック作成>画面に戻ります。

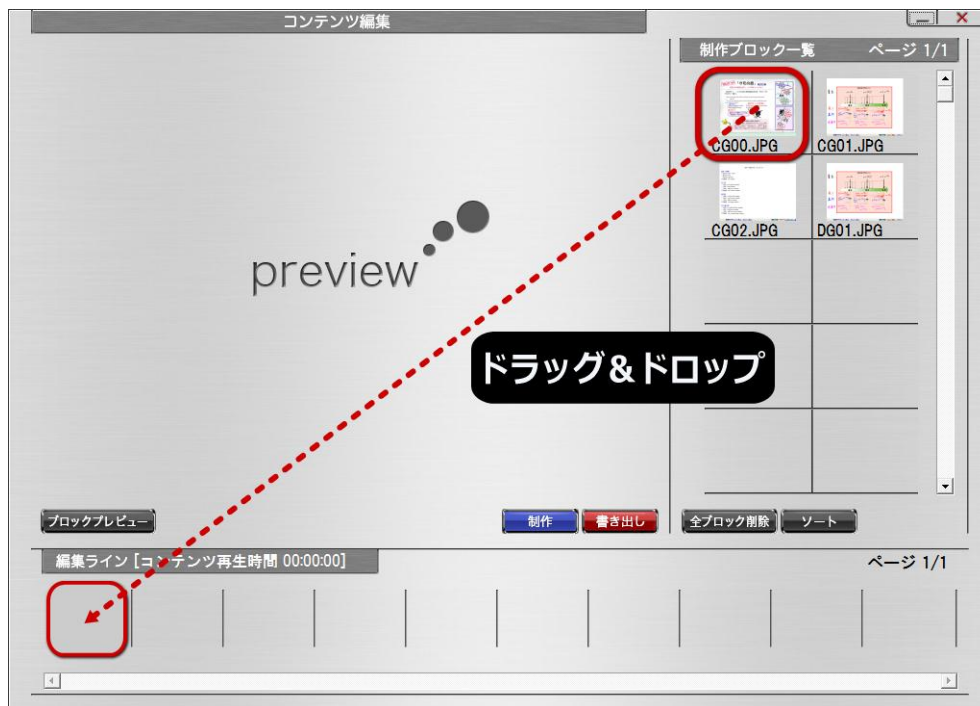
<「ブロック」を「TB ファイル」に変換する>

7. ブロックの「書き出し」をする

ブロックの「書き出し」とは、「ブロック」を編集し、配布可能な形式に変換することです。

①「TB ファイル」の作成に必要な複数の「ブロック」を【編集ライン】エリア(左下矢印の位置)に並べます。

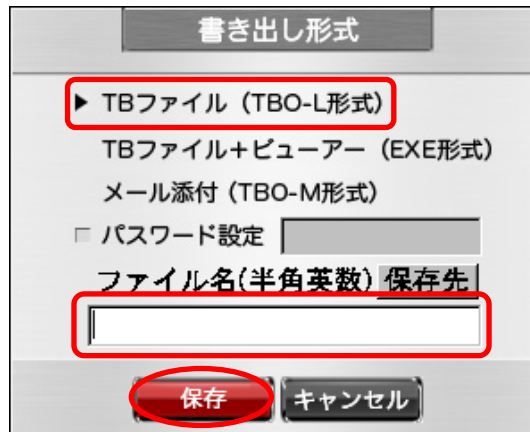
※必ず、「編集ライン」の左端から順にならべていって下さい。



②【編集ライン】エリアに「ブロック」が登録されたこと確認し、【書き出し】ボタンをクリックします。



③【書き出し】ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。TB ファイル形式を選択後、【ファイル名(半角英数)】に TB ファイル名を入力し、【保存】ボタンをクリックします。



1. TB ファイル形式を選択

(【TB ファイル】、【メール添付】のいずれかを選択してください。)

2. 【ファイル名(半角英数)】に TB ファイル名を入力します。

※TB ファイル名に、¥|/:*?“<>| 及び半角スペースは使用しないでください。

3. 【保存】ボタンをクリックします。

4. 保存先指定をしない場合は、デスクトップに TB ファイルが保存されます。

※書き出し形式について

ブロックの「書き出し」とは、「ブロック」を編集し、配布可能な形式に変換することです。

書き出し形式	詳細	拡張子
TB ファイル(TBO 形式)	ThinkBoard L シリーズユーザーに視聴してもらう場合に選択するとよいでしょう。 (注)ユーザーでない方の再生には「ThinkBoard Free60」のインストールが必要です。	TBO-LN
TB ファイル+ビューアー(EXE 形式) ※CD/DVD 等での配布が可能な形式	※ThinkBoard L シリーズのビューアーを含んだ形式 TB ファイルの視聴がはじめての相手に視聴してもらう場合に選択するとよいでしょう。ビューアーが含まれているので、CD や DVD 等で配布する場合に有効です。	EXE
メール添付(TBO-M 形式)	TB ファイルの画質と音質を低くするため、ファイルサイズが極めて小さくなります。このため、TB ファイルをメールに添付して相手に届けることができます。ファイル形式はTBO 形式と同じなので、再生には ThinkBoard Free60 のインストールが必要です。 (注 1)2 倍速再生はできません。 (注 2)1MB を超えるファイルの添付はお勧めできません。	TBO-MN

※視聴するパソコンで、拡張子が TBO-LN、TBO-MN のコンテンツのアイコンが、不明のアイコンで表示される場合、インストールされている ThinkBoard ビューアーがワイド画面に対応していません。
ThinkBoard 公式ホームページより、最新版の「ThinkBoard Free60」をダウンロードしインストールして下さい。

※画面解像度の設定を行っていない場合は、拡張子の末尾(N)が無いものになります。
(TB ファイル形式:TBO-L 、 メール添付形式:TBO-M)

8. 制作ブロック一覧内の「ブロックを削除」する

書き出しを完了(必要なブロック群を TB ファイルに変換)後、【制作ブロック一覧】エリアにあるブロックは削除しても問題ありません。TB ファイルは、改めて【制作ブロック一覧】エリアに読み込むことが可能です。「書き出し」はファイルの「保存」と同じ意味を成します。

(ブロックの削除方法)

【制作ブロック一覧】エリア内の削除したいブロック上で右クリックメニューを表示します。[ブロック削除]項目を選択すると削除されます。

(注意)

- (1)書き出し形式を TBO-L、TBO-LN 形式(TB ファイル形式)、または、TBO-M、TBO-MN 形式(メール添付形式)で保存をした場合に限りです。EXE 形式(TB ファイル+ビューア形式)のファイルは、再度読み込むことができません。
- (2)【制作ブロック一覧】エリア内のブロックの削除は、TB ファイルに正常に変換できていることを確認した上で行ってください。

<TB ファイルを制作ブロック一覧に読み込む(再利用)>

過去に制作した TB ファイル(=TB コンテンツ)は、何度も【制作ブロック一覧】エリア内に読み込むことができます。そのため、過去に制作した TB ファイル(A)と TB ファイル(B)のそれぞれ必要なブロックで構成された新しい TB ファイル(C)を簡単に作り上げることができます。

(TB ファイルの読み込み方法)

【制作ブロック一覧】エリア内で右クリックメニューを表示します。[TB コンテンツ取込]を選択すると、<ThinkBoardコンテンツ取込>画面が表示されますので、読み込みたい TB ファイルを選択し読み込みます。

6. 画面構成とボタンの動作

画面 1 <TOP メニュー> 画面

TOP メニュー画面です。



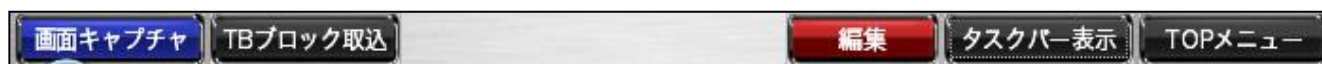
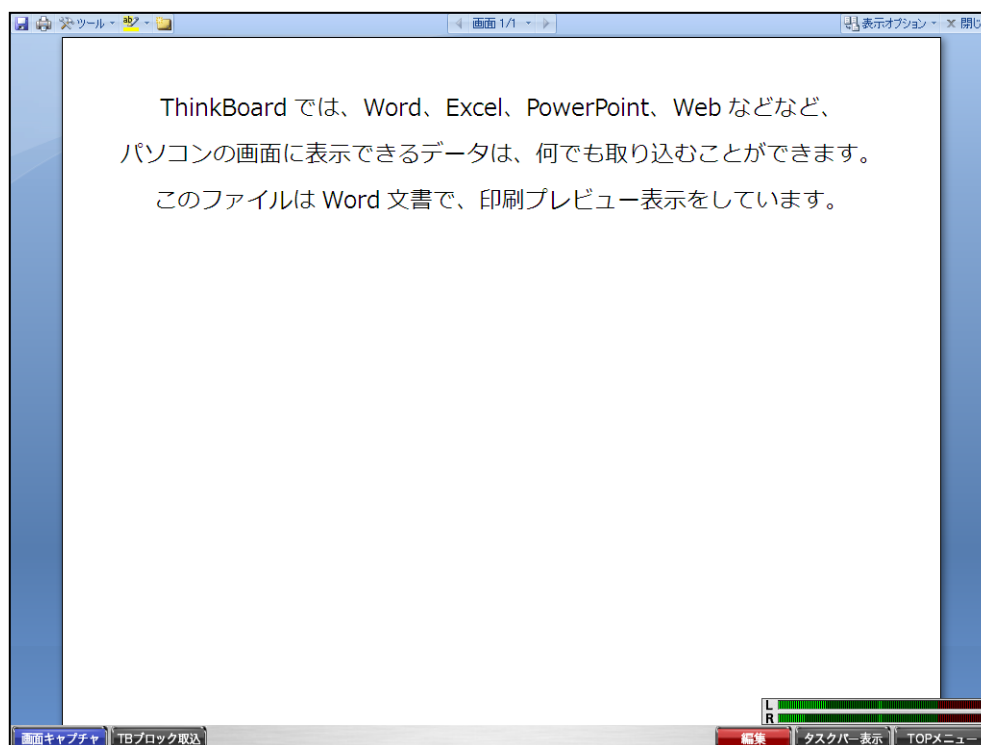
TOP メニュー内のボタン、項目の説明をします。

ボタン / 項目	ボタンの動作 / 項目内容
【制作】ボタン	クリックすると、<ブロック作成>画面が表示されます。
【×】ボタン	TOP メニューを閉じると同時に、ThinkBoard を終了します。
バージョン表記	お使いの ThinkBoard システムのバージョンを確認できます。
【Update Check】	更新ファイルの確認ができます。(要インターネット接続) また、ThinkBoard の起動回数を補充したい場合にも使用します。
制作モード	ノーマル: 通常の制作モードです。 イージー: 操作の手間を省き、コンテンツの制作時間が短縮できます。 プレゼン: 事前に作成したコンテンツを使用し記録しながらのプレゼンテーションが可能なモードです。
【サポートページ】	ユーザサポートページへアクセスします。 「オンラインマニュアル」、「FAQ(よくある質問)」などご覧いただけます。「お問い合わせ」窓口もあり、「ユーザ登録」もできます。
【インジケータ】(鉛筆マーク)	インターネットに接続していない状態での ThinkBoard の起動回数を確認するためのインジケータです。[Update Check]ボタンで自動的に ThinkBoard サイトにアクセスすることにより、起動回数を復活させることができます。(要インターネット接続)

画面 2-1 <ブロック作成> 画面

※画面キャプチャ前

画面キャプチャ前の<ブロック作成>画面です。



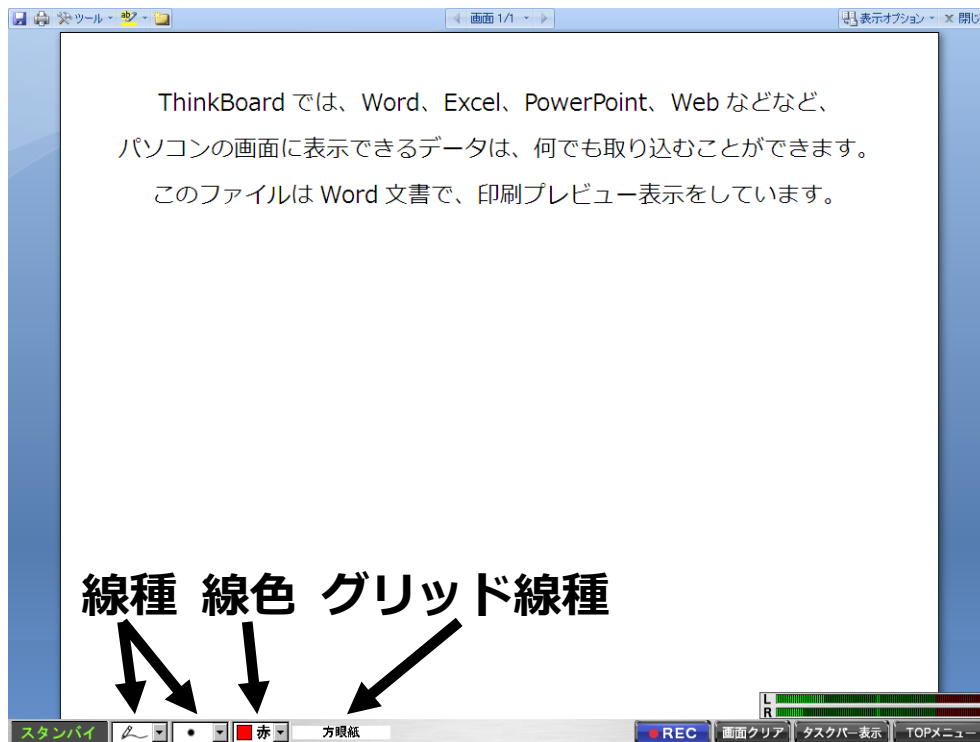
ブロック作成画面(画面キャプチャ前)の操作バーの説明をします。

ボタン	ボタンの動作
【画面キャプチャ】	デスクトップに表示されている画面を取り込みます(キャプチャします)。 ※画面をキャプチャすると、スタンバイモードへ移行します。
【TB ブロック取込】	これまでに作成した TB ファイルから1ブロック(1シーン)を取り込み、修正をしたい箇所の再記録ができます。(上書き修正です)。 【取込方法】: ThinkBoard 操作バーの「TB ブロック取込」をクリックし、作成済の TB ファイルが保存されているフォルダを開くと、ファイル一覧が表示されます。修正したいブロックを含む TB ファイルを選択し【開く】ボタンをクリックすると、作成済みのブロックが表示されます。修正したいブロックを選択し【開く】ボタンをクリックすると、修正したいブロックが<ブロック作成>画面に表示されます。
【編集】	<コンテンツ編集>画面に移行します。ブロックを再生順に【編集ライン】エリアに並べ、コンテンツ化することができます。
【タスクバー表示】	Windows のタスクバーを表示して作成したい場合に利用します。
【TOP メニュー】	ブロック作成を終了して、<TOP メニュー>に戻ります。

画面 2-2 <ブロック作成> 画面

※画面キャプチャ後/記録前

画面キャプチャ後/記録前の<ブロック作成>画面です。



<ブロック作成>画面(画面キャプチャ後/記録前)の操作バーの説明をします。

ボタン	ボタンの動作		
【線種】	<p>線の種類と線の太さを選択できます。操作バーのプルダウンメニューから選択します。</p> <p>線種：ペン、マーカー、直線、二重線、点線、波線、円、矩形(長方形)</p> <p>線の太さ：●細い、●普通、●太い</p> <p>※二重線、点線、波線の線の太さは選べません。</p> <p>※線の太さはキー操作でも変更できます。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>線種</td> <td>●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※(F1)は[F1]キーを表します。</p>	線種	●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)
線種	●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)		
【線色】	<p>線の色を選択できます。操作バーのプルダウンメニューから選択します。</p> <p>線色：白、黒、赤、桃、青、緑、黄</p> <p>※線の色はキー操作でも変更できます。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>線色</td> <td>黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※(F1)は[F1]キー、(P)は[P]キーを表します。</p>	線色	黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)
線色	黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)		
【グリッド線種】	<p>グリッド線の種類を表示・選択します。</p> <p>種類：方眼紙、レポート横、レポート縦、英語練習ノート、漢字練習帳、原稿用紙(10×10)、五線譜</p>		
【●REC】	記録(録画と録音)を開始します。		
【画面クリア】	キャプチャ画面をクリアします。		
【タスクバー表示】	Windowsのタスクバーを表示して作成したい場合に利用します。		
【TOPメニュー】	ブロック作成を終了して、<TOPメニュー>に戻ります。		

画面 2-3 <ブロック作成> 画面

※記録中

記録中の<ブロック作成>画面です。



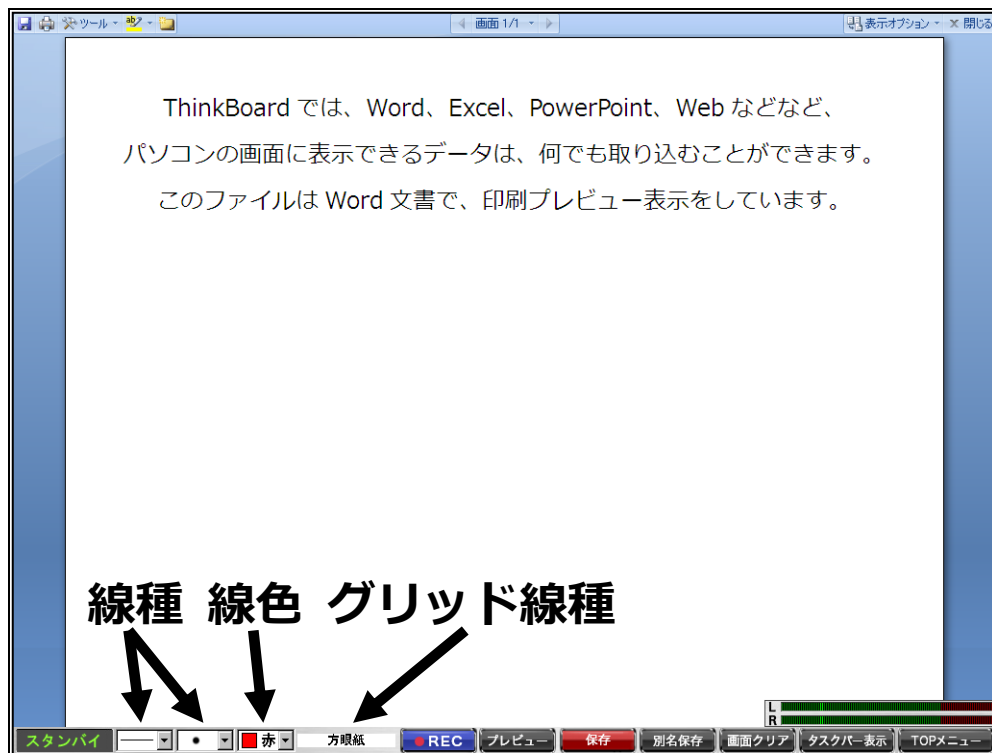
<ブロック作成>画面(記録中)の操作バーの説明をします。

ボタン	ボタンの動作		
【線種】	<p>線の種類と線の太さを選択できます。操作バーのプルダウンメニューから選択します。</p> <p>線種：ペン、マーカー、直線、二重線、点線、波線、円、矩形(長方形)</p> <p>線の太さ：●細い、●普通、●太い</p> <p>※二重線、点線、波線の線の太さは選べません。</p> <p>※線の太さはキー操作でも変更できます。</p> <table border="1" data-bbox="375 1384 1043 1435"> <tr> <td>線種</td> <td>●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)</td> </tr> </table> <p>※(F1)は[F1]キーを表します。</p>	線種	●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)
線種	●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)		
【線色】	<p>線の色を選択できます。操作バーのプルダウンメニューから線色を選択します。</p> <p>線色：白、黒、赤、桃、青、緑、黄</p> <p>※線の色はキー操作でも変更できます。</p> <table border="1" data-bbox="375 1608 1326 1659"> <tr> <td>線色</td> <td>黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)</td> </tr> </table> <p>※(F1)は[F1]キー、(P)は[P]キーを表します。</p>	線色	黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)
線色	黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)		
【終了】	記録を終了します。		
【一時停止】	記録を一時停止します。		
【再開】	※一時停止状態の時に表示されています。 記録を再開します。		

画面 2-4 <ブロック作成> 画面

※記録終了後

記録終了後の<ブロック作成>画面です。



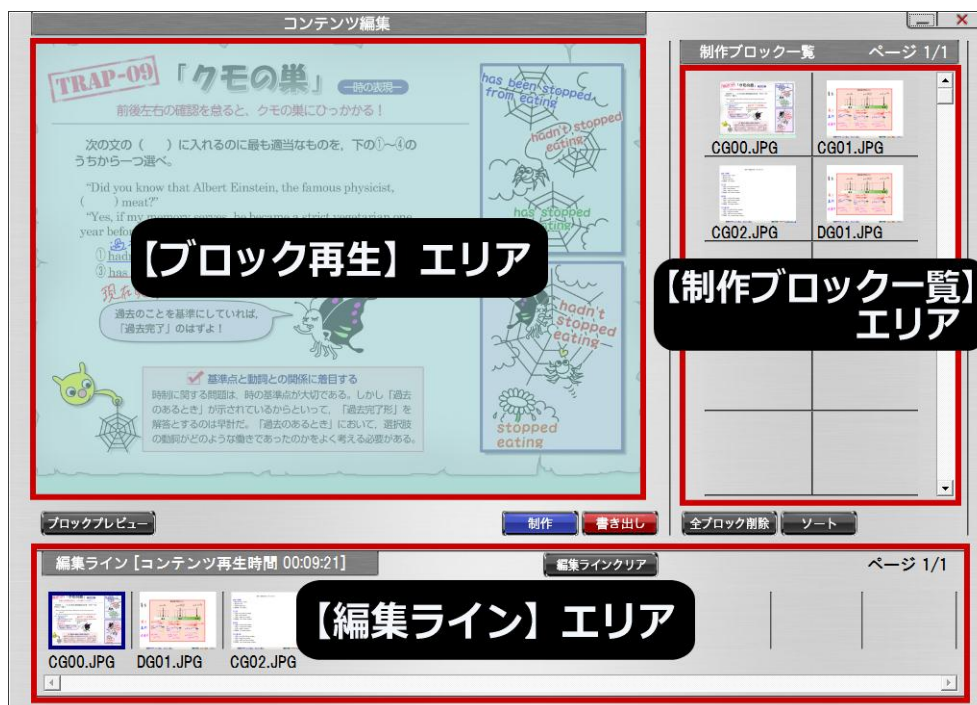
<ブロック作成>画面(記録終了後)の操作バーの説明をします。

ボタン	ボタンの動作		
【線種】	<p>線の種類と線の太さを選択できます。操作バーのプルダウンメニューから選択します。</p> <p>線種：ペン、マーカー、直線、二重線、点線、波線、円、矩形(長方形)</p> <p>線の太さ：●細い、●普通、●太い</p> <p>※二重線、点線、波線の線の太さは選べません。</p> <p>※線の太さはキー操作でも変更できます。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>線種</td> <td>●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)</td> </tr> </table> <p>※(F1)は[F1]キーを表します。</p>	線種	●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)
線種	●細い(F1) / ●普通(F2) / ●太い(F3)		
【線色】	<p>線の色を選択できます。操作バーのプルダウンメニューから線色を選択します。</p> <p>線色：白、黒、赤、桃、青、緑、黄</p> <p>※線の色はキー操作でも変更できます。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>線色</td> <td>黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)</td> </tr> </table> <p>※(F1)は[F1]キー、(P)は[P]キーを表します。</p>	線色	黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)
線色	黒(F5) / 赤(F6) / 青(F7) / 緑(F8) / 桃(P) / 黄(Y) / 白(W)		
【グリッド線種】	<p>グリッド線の種類を表示・選択します。</p> <p>種類：方眼紙、レポート横、レポート縦、英語練習ノート、漢字練習帳、原稿用紙(10×10)、五線譜</p>		
【●REC】	録画と録音を開始します。		
【プレビュー】	記録内容を確認することができます。		
【保存】	自動的にファイル名が付与されてデータが保存されます。		
【別名保存】	保存先のファイル名を自由につけるときに用います。		
【画面クリア】	<p>キャプチャ画面をクリアします。</p> <p>※直前に作成したブロックを保存せずにこのボタンをクリックすると、そのブロックは消去されます。</p>		
【タスクバー表示】	Windows のタスクバーを表示して作成したい場合に利用します。		
【TOP メニュー】	<TOP メニュー>に戻ります。		

画面3 <コンテンツ編集>画面

<コンテンツ編集>画面です。

※操作バーの【編集】ボタンをクリックすると表示されます。



<コンテンツ編集>画面のボタンの説明をします。

ボタン	ボタンの動作
【ブロックプレビュー】	【編集ライン】エリアで選択したブロックを、【ブロック再生】エリアで再生します。
【制作】	<ブロック作成>画面を表示します。
【書き出し】	制作ブロックを TB ファイルに変換します。
【全ブロック削除】	【制作ブロック一覧】エリアにあるブロックをすべて削除します。 ※削除の前に、必要なブロックの書き出しが終了していることをご確認ください。
【編集ラインクリア】	【編集ライン】エリアに置かれた制作ブロックをすべてクリアします。

※「コンテンツ編集時の右クリックメニュー」と「書き出し形式」については、後のページで説明しています。

※コンテンツ編集での右クリックメニューについて

各エリアで『右クリック』すると、以下の作業が可能になります。

1)【制作ブロック一覧】エリアで右クリックした場合



項目	詳細
ファイル名変更	選択した制作ブロックのファイル名を変更します。 ※ファイル名を変更する制作ブロックにポインタを合わせて右クリックして下さい。
ブロック削除	選択した制作ブロックを【制作ブロック一覧】エリアから削除します。 ※削除する制作ブロックにポインタを合わせて右クリックして下さい。
TB コンテンツ取込	保存してある TB ファイルを構成する全てのブロックを【制作ブロック一覧】エリアに取り込みます。 【取込方法】:メニューの「TB コンテンツ取込」をクリックし、TB ファイルが保存されているフォルダからファイルを選択し、【開く】ボタンをクリックすると、選択したTB ファイルを構成する全てのブロックが【制作ブロック一覧】エリアに取り込まれます。
キャンセル	メニューを閉じます。

2)【編集ライン】エリアで右クリックした場合



項目	詳細
チャプター	<p>複数のブロックにチャプター(区切り)を設定することができます。この設定を行うとTB ファイル再生中にお好みのシーンに移動することができます。</p> <p>【設定方法】:編集ラインエリアのブロックを選択し右クリックします。メニューの「チャプター」をクリックするとチャプター名入力画面になりますので、分かりやすい名称を入力してください。【OK】ボタンをクリックすると設定終了です。</p> <p>【設定解除方法】:編集ラインエリアのブロックを選択し右クリックします。メニューの中の「チャプター」をクリックするとチェックがはずれ、設定が解除されます。</p> <p>【利用方法】:TB ファイル再生時に右クリックメニューのチャプターをクリックすると設定したチャプターが表示されますので選択してください。お好みのシーンが表示されます。</p>
ブロッカー括挿入	<p>【編集ライン】エリアにある制作ブロックをすべてクリアし、あらたに【制作ブロッカー一覧】エリアの制作ブロックを一括して【編集ライン】エリアに取り込みます。</p>
ブロッカークリア	<p>選択した制作ブロックを【編集ライン】エリアから削除します。</p>
一時停止	<p>TB ファイル再生中に次のブロックへの移動を停止させることができます。</p> <p>【設定方法】:編集ラインエリアのブロックを選択し右クリックします。メニューの「一時停止」をクリックすると設定終了です。</p> <p>【設定解除方法】:編集ラインエリアのブロックを選択し右クリックします。メニューの中の「一時停止」をクリックするとチェックがはずれ、設定が解除されます。</p>
キャンセル	<p>メニューを閉じます。</p>

画面 4 <書き出し形式> 画面

ブロックの<書き出し形式>画面です。

※ブロックの「書き出し」とは、「ブロック」を編集し、配布可能な形式に変換することです。

※<コンテンツ編集>画面内の【書き出し】ボタンをクリックすると表示されます。

<書き出し形式>画面のボタンの説明をします。

項目	詳細	(拡張子)
TB ファイル(TBO-L 形式)	ThinkBoard L シリーズユーザーに視聴してもらう場合に選択するとよいでしょう。 (注)ユーザーでない方の再生には「ThinkBoard Free60」のインストールが必要です。	TBO-LN
TB ファイル+ビューアー(EXE 形式) ※CD/DVD 等での配布が可能な形式	※ThinkBoard L シリーズのビューアーを含んだ形式 TB ファイルの視聴が初めての相手に視聴してもらう場合に選択するとよいでしょう。ビューアーが含まれているので、CD や DVD 等で配布する場合に有効です。	EXE
メール添付(TBO-M 形式)	TB ファイルの画質と音質を低くするため、ファイルサイズが極めて小さくなります。このため、TB ファイルをメールに添付して相手に届けることができます。ファイル形式はTBO 形式と同じなので、再生には ThinkBoard Free60 のインストールが必要です。 (注 1)2 倍速再生はできません。 (注 2)1MB を超えるファイルの添付はお勧めできません。	TBO-MN
パスワード設定	パスワードを設定して、TB ファイルの視聴を制限することができます。	
ファイル名(半角英数)	保存する際のファイル名を設定します。半角英数字のみ使用可です。 ※¥ /:*?“<>() 及び半角スペースは使用不可です。	
保存先	TB ファイルの保存先を指定できます。	
【保存】ボタン	TB ファイルが保存されます。	
【キャンセル】ボタン	TB ファイルの保存をキャンセルし、画面を閉じます。	

※視聴するパソコンで、拡張子が TBO-LN、TBO-MN のコンテンツのアイコンが、不明のアイコンで表示される場合、インストールされている ThinkBoard ビューアーがワイド画面に対応していません。

ThinkBoard 公式ホームページより、最新版の「ThinkBoard Free60」をダウンロードしインストールして下さい。

7. フレックス修正の手順

作成済みのブロックを利用して、新たに音声と手書き描画で上書き修正をすることができます。

<ご確認事項>

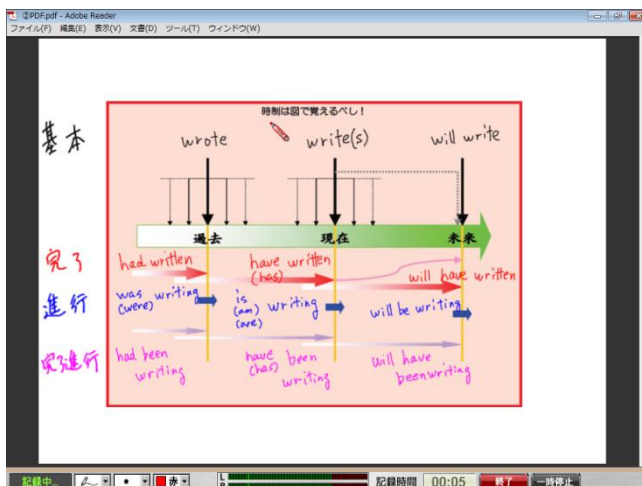
- (1)簡易修正機能は、簡単でスピーディなブロックの修正を実現します。
- (2) (a)ある区間の修正、及び、(b)あるポイントから最後まで修正 ことができます。 ※上書き修正です。
- (3)修正したブロックは別名保存することにより、修正前のブロックと修正後のブロックを両方とも利用することができます。

< 記録直後のブロックの修正方法 >

(a)ある区間の修正方法

記録直後に行うことができる修正方法を説明します。

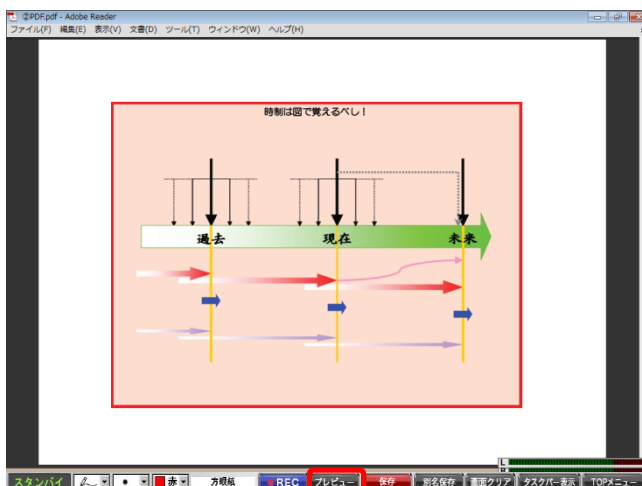
①



<ブロック作成>画面で記録をします。

※左は記録中の画面です。

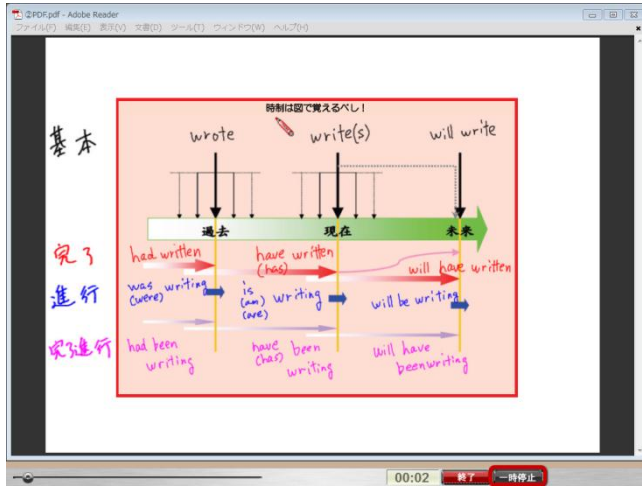
②



記録が終了した後、【プレビュー】ボタンをクリックします。

※左は記録終了後で保存前の画面です。

③



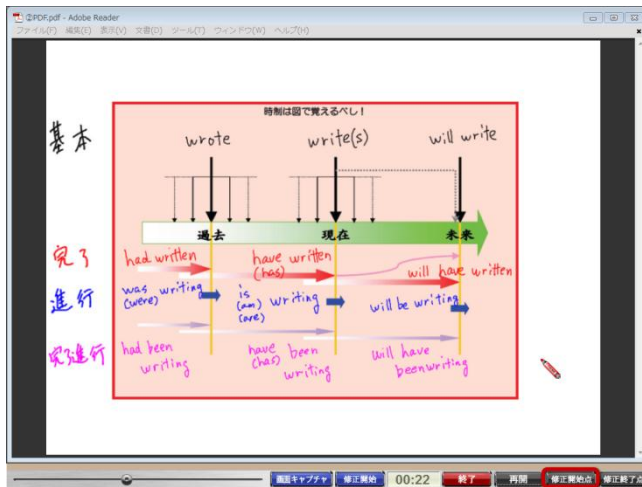
<修正区間の開始位置を指定します。>

修正を開始する位置を決めます。修正をはじめたい位置で、【一時停止】ボタンをクリックしてください。

※左はプレビュー中の画面です。

※【修正開始点】と【修正終了点】が一致する場合の操作手順は、一連の案内の最後で紹介しています。

④



【修正開始点】ボタンをクリックします。

※修正開始位置を変更したい場合は、【再開】ボタンをクリックして、調整してください。

※左下のツマミでも調整が可能です。

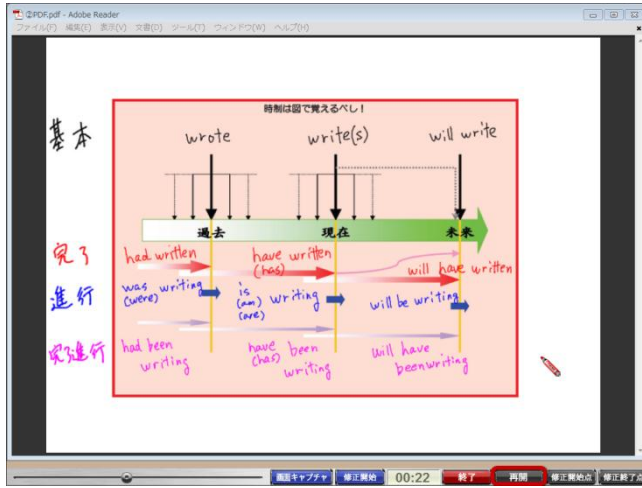
⑤



【修正開始点】ボタンをクリックすると左の画面が表示されます。【はい】をクリックしてください。

※【いいえ】ボタンをクリックすると、④の状態に戻ります。

⑥

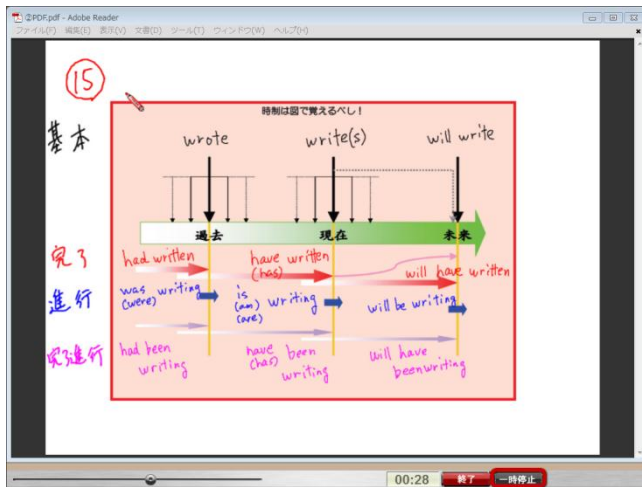


<修正区間の終了位置を指定します。>

【再開】ボタンをクリックしプレビューを再開します。

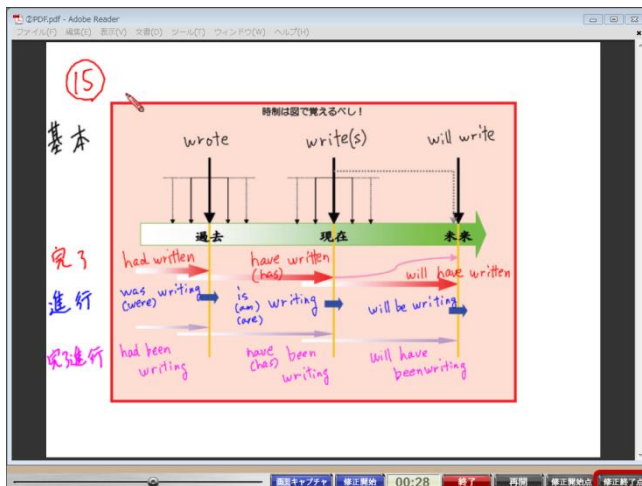
※【修正開始点】と【修正終了点】が一致する場合の操作手順は、一連の案内の最後で紹介しています。

⑦



修正を終了する位置を決めます。修正を終わりたい位置で、【一時停止】ボタンをクリックしてください。

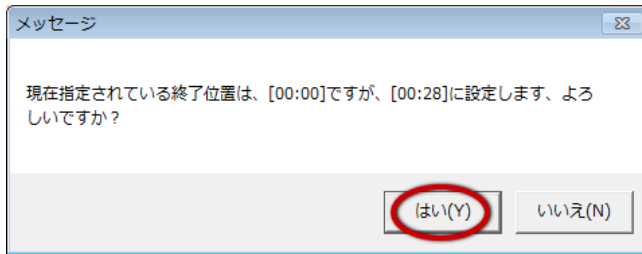
⑧



【修正終了点】ボタンをクリックします。

※修正終了位置を変更したい場合は、【再開】ボタンをクリックして、調整してください。

⑨

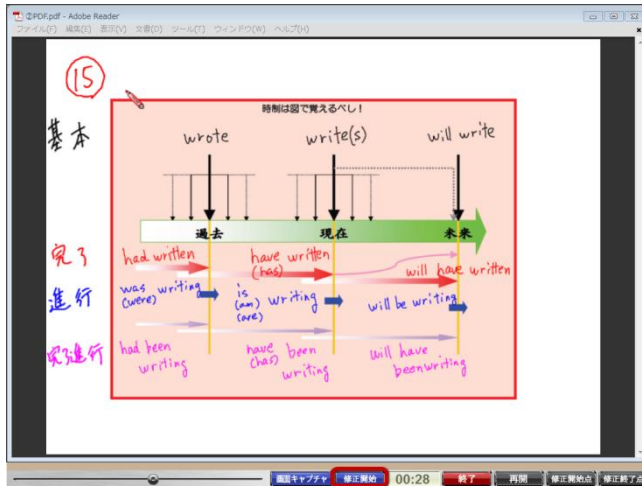


【修正終了点】ボタンをクリックすると左の画面が表示されます。【はい】をクリックしてください。以上で、修正区間が決定しました。

※【いいえ】ボタンをクリックすると、⑧の状態に戻ります。



⑩

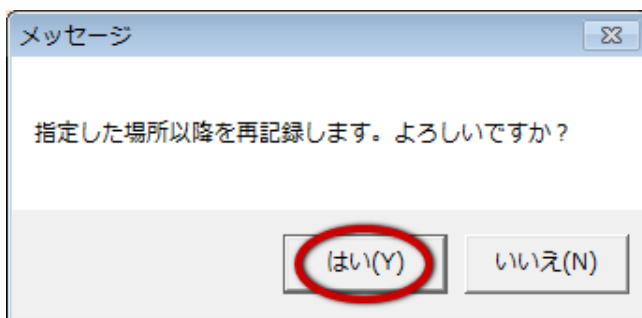


【修正開始】ボタンをクリックすると、修正したい区間の再記録がスタートします。

※【修正開始点】から【修正終了点】までをカットする手順は、一連の案内の最後で紹介しています。



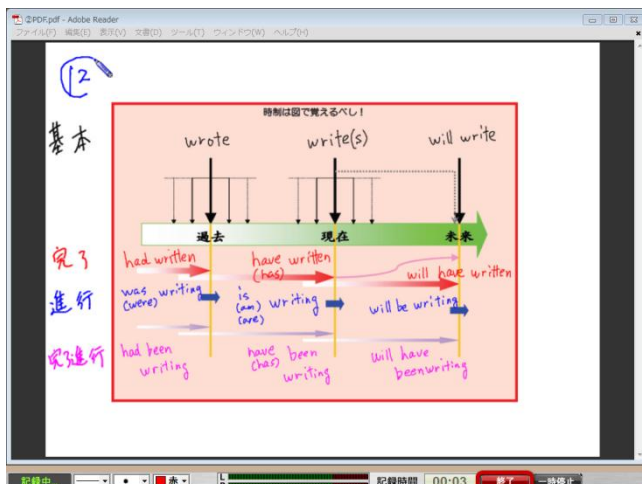
⑪



【修正開始】ボタンをクリックすると左の画面が表示されます。【はい】をクリックしてください。修正する区間の再記録(上書き)が可能な状態になり、再記録がスタートします。



⑫

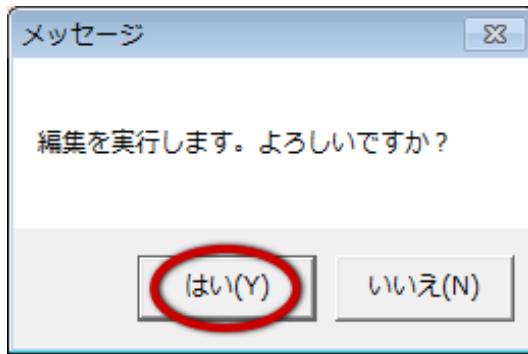


※左は再記録中の画面です。

【終了】ボタンをクリックすると、再記録の終了です。



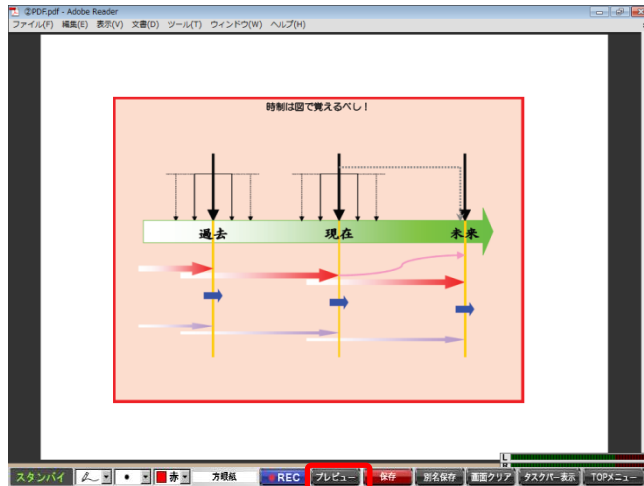
⑬



左の画面が表示されます。【はい】をクリックしてください。



⑭



【プレビュー】ボタンで修正後のブロックを確認し OK であれば、【保存】ボタンをクリックします。ある区間の修正(上書き)が完了です。

【保存】ボタンをクリックした後は、操作バーの【編集】ボタンをクリックして、<コンテンツ編集>画面に進み、作業を進めてください。

※あるポイントに挿入収録したい場合

【修正開始点】と【修正終了点】が同じ場合は、【修正開始点】を決定した後(⑤の後です)、[Shift]キーを押しながら[Y]キーを押すと、挿入収録を開始します。

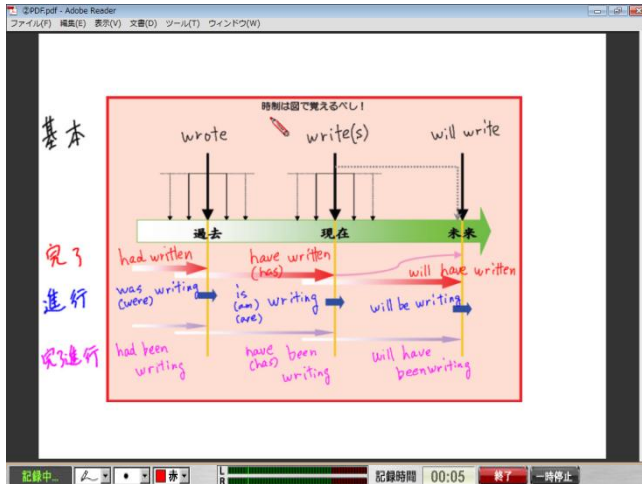
※指定した部分を全てカットしたい場合

指定した部分を全てカットしたい場合は、【修正終了点】を決定した後(⑨の後です)、[Shift]キーを押しながら[T]キーを押すと、一気にカットされます。

(b)あるポイントから最後まで修正方法

記録直後に行うことができる修正方法を説明します。

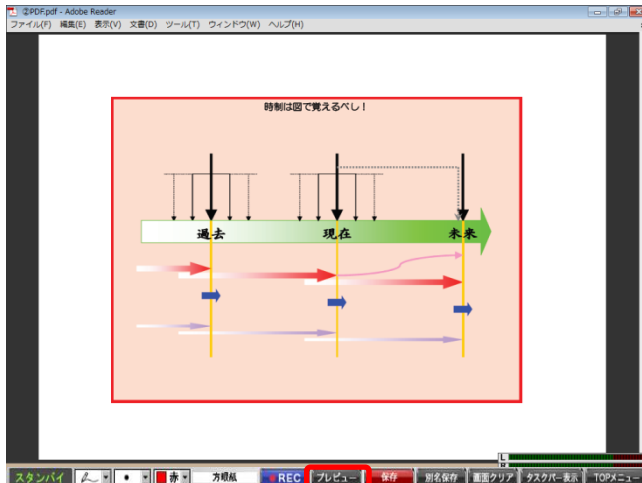
①



<ブロック作成>画面で記録をします。

※左は記録中の画面です。

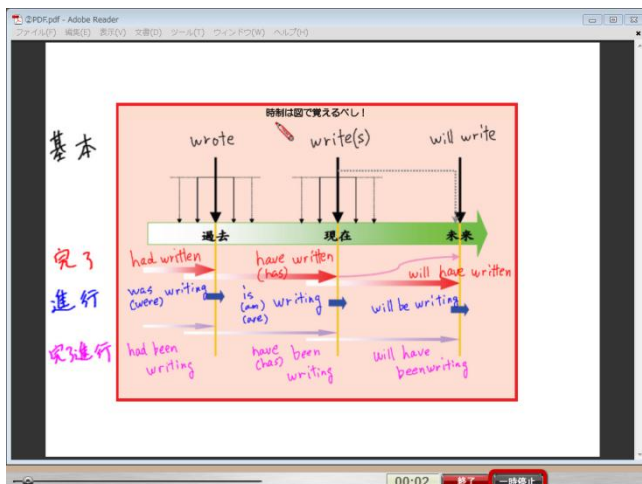
②



記録が終了した後、【プレビュー】ボタンをクリックします。

※左は記録終了後で保存前の画面です。

③

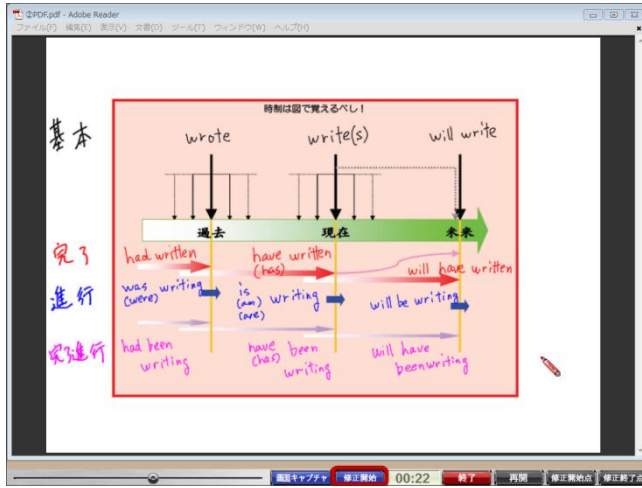


上書き修正をはじめたい位置で、【一時停止】ボタンをクリックします。

※左はプレビュー中の画面です。

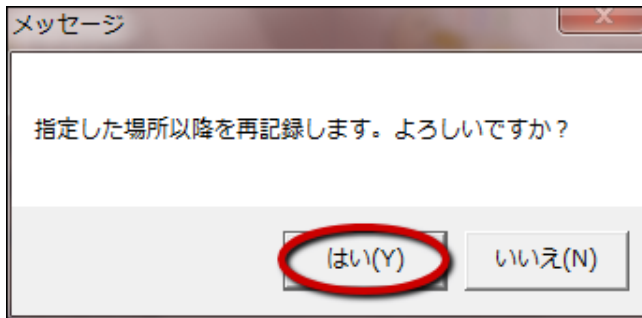
※指定したポイント以降を全てカットしたい場合の操作手順は、一連の案内の最後で紹介しています。

④



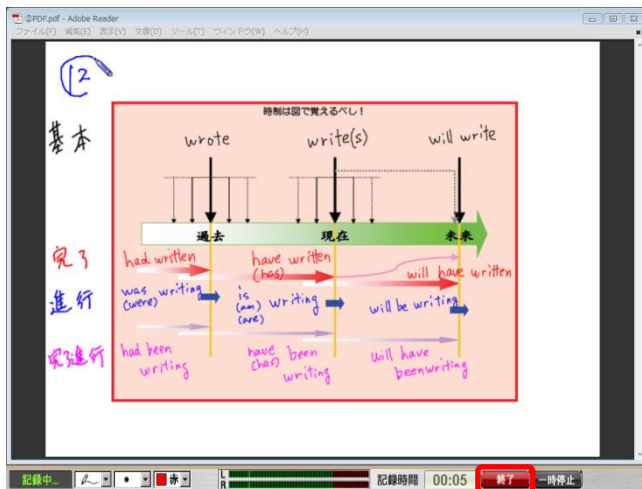
一時停止された状態です。

⑤



一時停止された状態で、【修正開始】ボタンをクリックすると左の画面が表示されます。【はい】をクリックしてください。

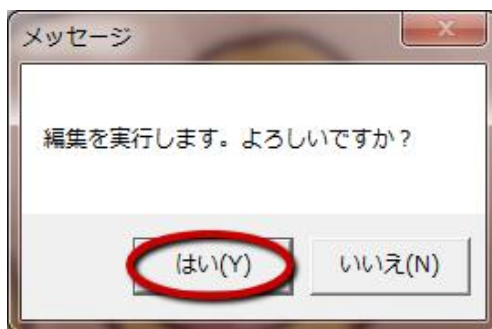
⑥



※左は再記録中の画面です。

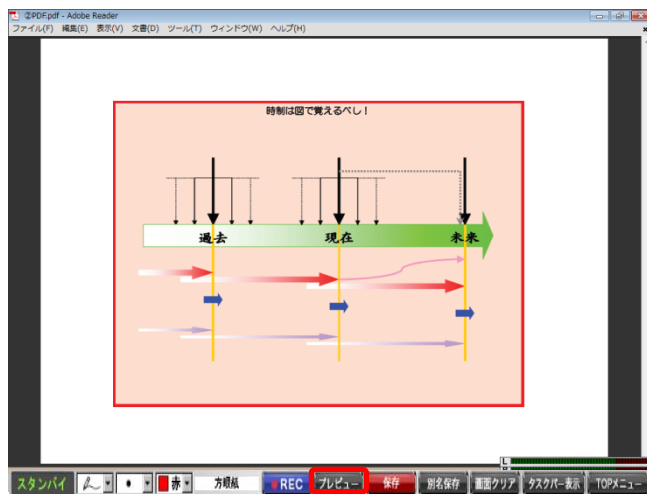
一時停止した位置以降の再記録(上書き)が可能な状態になり、再記録がスタートします。【終了】ボタンをクリックすると、再記録の終了です。

⑦



左の画面が表示されますので OK であれば、【はい】ボタンをクリックします。
※【いいえ】ボタンをクリックすると、④の状態に戻ります。

⑧



【プレビュー】ボタンで修正後のブロックを確認し OK であれば、【保存】ボタンをクリックして、上書き修正が完了です。

【保存】ボタンをクリックした後は、操作バーの【編集】ボタンをクリックして、＜コンテンツ編集＞画面に進み、作業を進めてください。

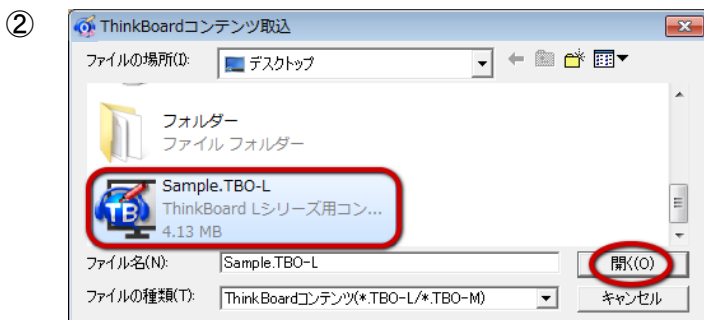
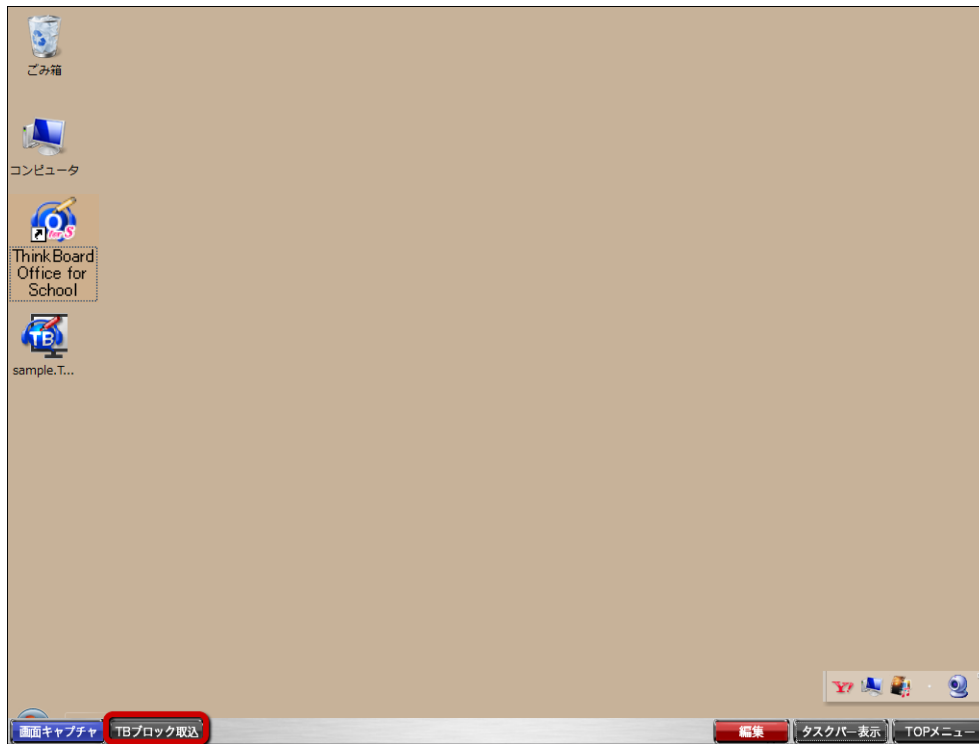
※指定したポイント以降を全てカットしたい場合

あるポイント以降を全てカットしたい場合は、カット開始点で【一時停止】ボタンを押した後(③の後です)、[Shift]キーを押しながら[T]キーを押すと、そのポイント以降が全てカットされます。

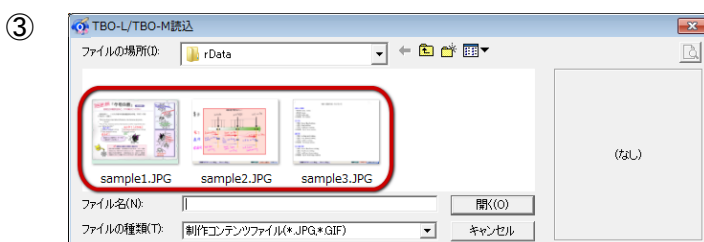
< 過去に作成したブロックの修正方法 >

(a)ある区間の修正方法

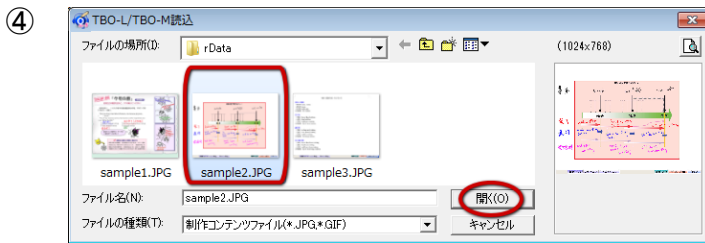
- ① ThinkBoard を起動し、ThinkBoard 操作バーの【TB ブロック取込】ボタンをクリックします。



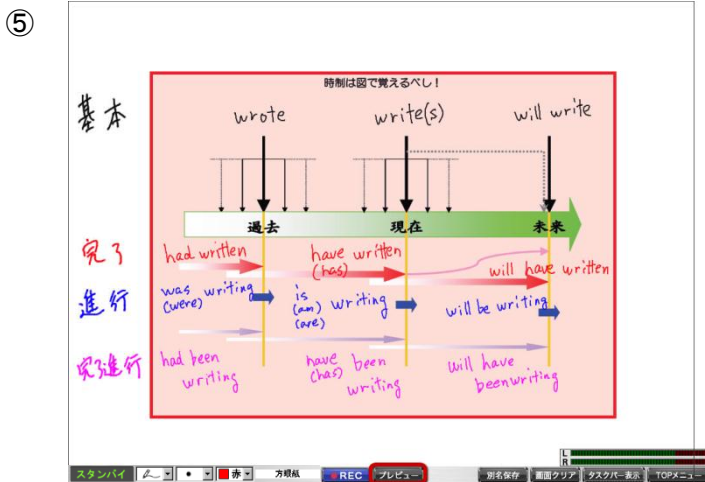
作成済の TB ファイルが保存されているフォルダを開くと、ファイル一覧が表示されます。修正したいブロックを含む TB ファイルを選択し【開く】ボタンをクリックします。



ブロッケー一覧が表示されます。



修正したいブロックを選択し【開く】ボタンをクリックします。



＜修正区間の開始位置を指定します。＞
作成済のブロックが表示されます。【プレビュー】ボタンをクリックし、修正をはじめたい位置で、【一時停止】ボタンをクリックします。続きの操作は、「(a)ある区間の修正方法」の＜記録直後のブロック修正方法＞での説明③以降と同じです。

※あるポイントに挿入収録したい場合

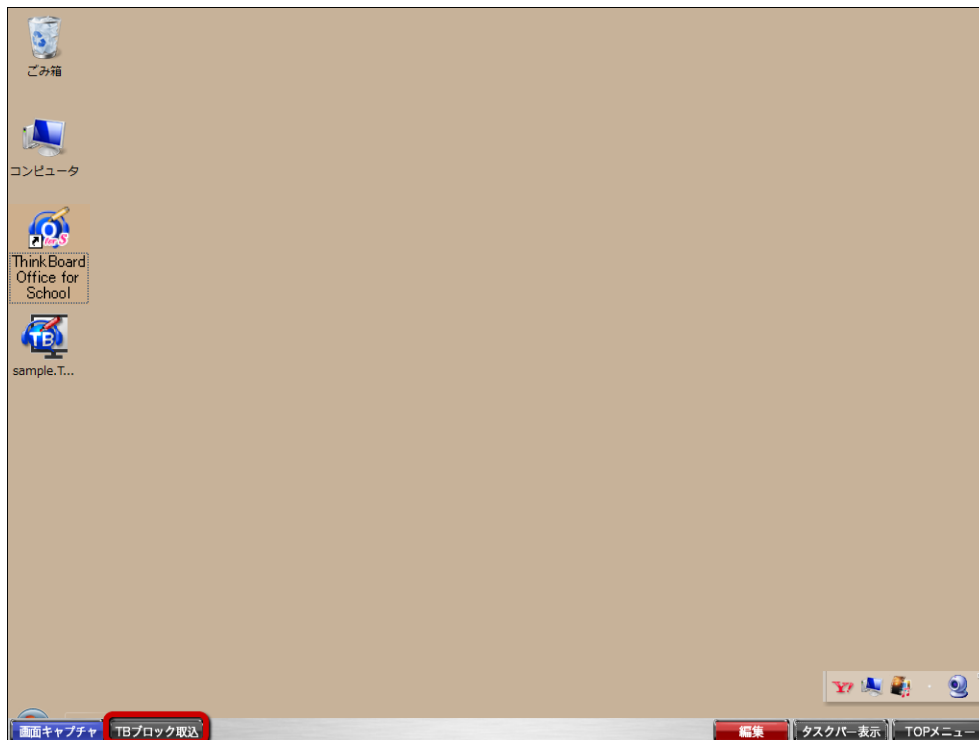
【修正開始点】と【修正終了点】が同じ場合は、【修正開始点】を決定した後、[Shift]キーを押しながら[Y]キーを押すと、挿入収録を開始します。

※指定した部分を全てカットしたい場合

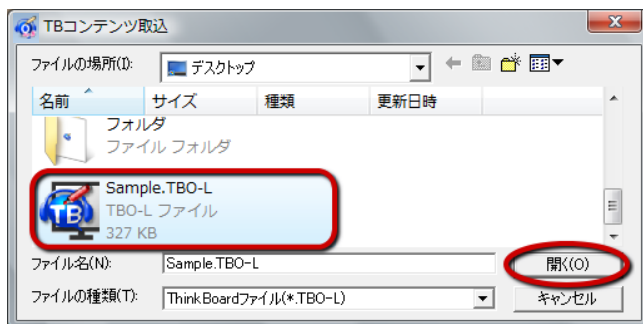
指定した部分を全てカットしたい場合は、【修正終了点】を決定した後、[Shift]キーを押しながら[T]キーを押すと、一気にカットされます。

(b)あるポイントから最後まででの修正方法

①ThinkBoard を起動し、ThinkBoard 操作バーの【TB ブロック取込】ボタンをクリックします。

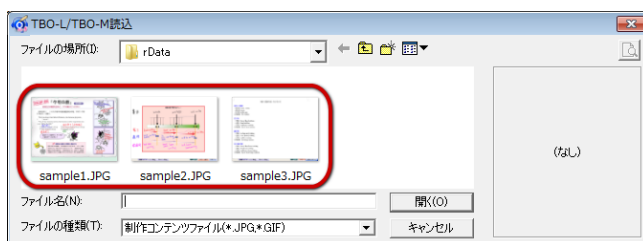


②



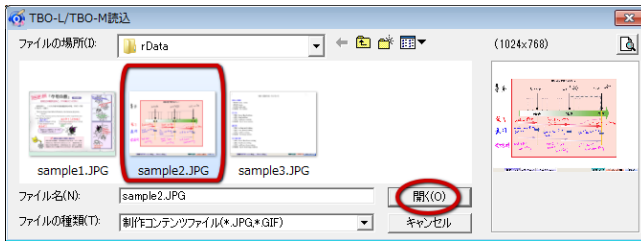
作成済のTBファイルが保存されているフォルダを開くと、ファイル一覧が表示されます。修正したいブロックを含む TB ファイルを選択し【開く】ボタンをクリックします。

③



ブロッカー一覧が表示されます。

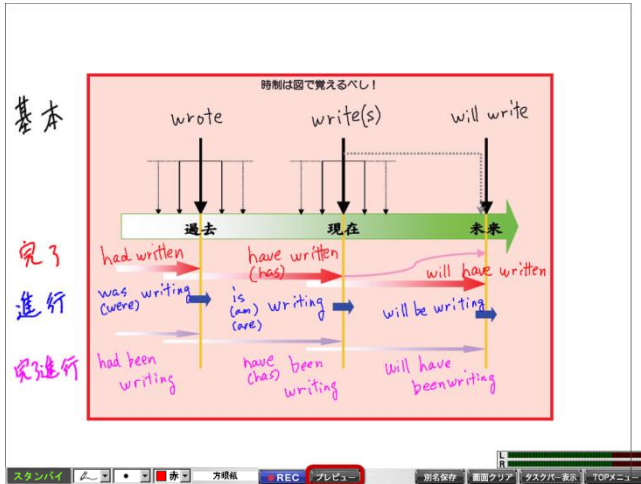
④



修正したいブロックを選択し【開く】ボタンをクリックします。



⑤



作成済のブロックが表示されますので、【プレビュー】ボタンをクリックし、上書き修正をはじめたい位置で、【一時停止】ボタンをクリックします。一時停止された状態で、【修正開始】ボタンをクリックすると記録が可能になります。続きの操作は、(b)あるポイントから最後まででの修正方法の<記録直後のブロック修正方法>での説明④以降と同じです。

※指定したポイント以降を全てカットしたい場合

あるポイント以降を全てカットしたい場合は、カット開始点で【一時停止】ボタンを押した後、[Shift]キーを押しながら[T]キーを押すと、そのポイント以降が全てカットされます。

8. 制作モード（イージーモード）

<TOPメニュー>から選択できる制作モードには、「ノーマル」、「イージー」、「プレゼン」があります。ここでは、「イージー」モードについて説明します。

「イージー」モードの特徴	操作は基本的に「ノーマル」モードと同じです。「ノーマル」モードとの大きな違いは、記録開始と同時に自動的に画面をキャプチャし、停止と同時にブロックを自動保存できることです。「ノーマル」モードで十分に制作できるようになれば、「レコード」モードで制作時間を短縮できます。
--------------	--

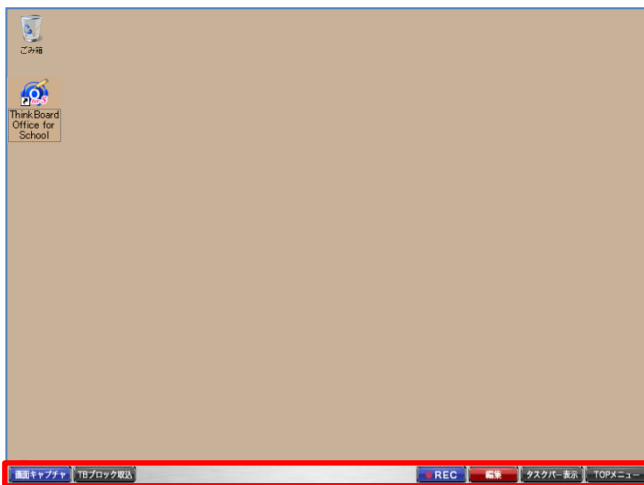
<操作方法>

①



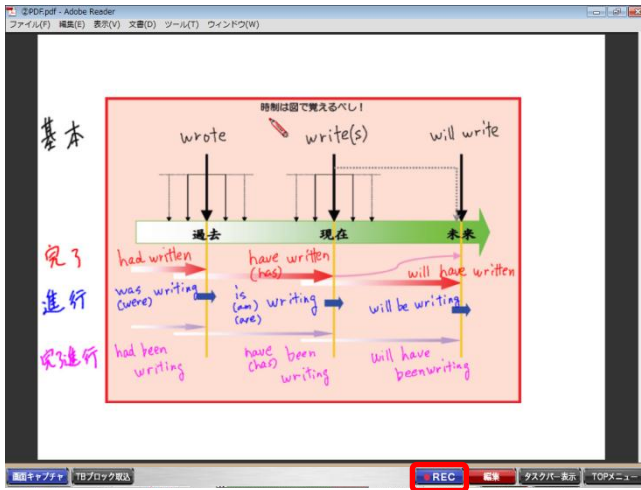
<TOPメニュー>で【制作モード】の「イージー」を選択し【制作】ボタンをクリックします。

②



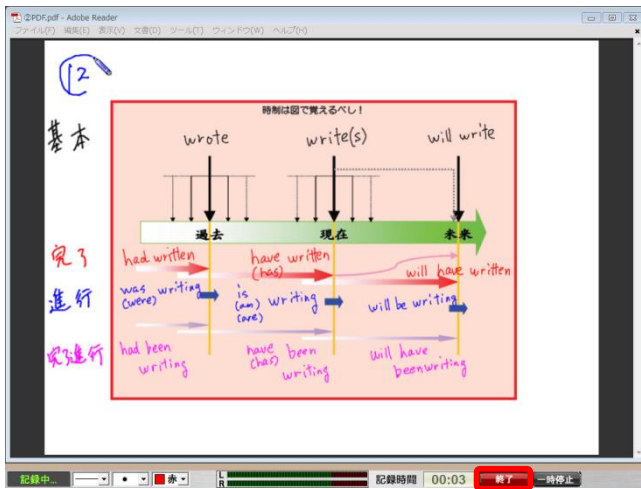
「ノーマル」モードの場合とは異なり、ThinkBoard 専用操作バーに【●REC】ボタンが表示されます。

③



利用する画面を表示させて、【●REC】ボタンをクリックすると、自動的に画像をキャプチャし、記録を開始します。

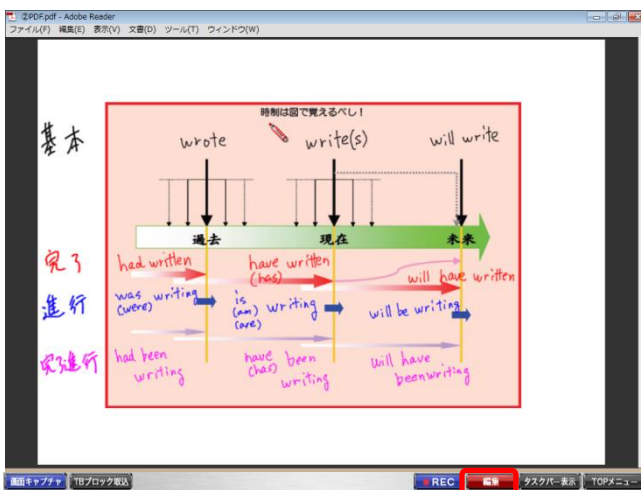
④



【終了】ボタンをクリックすると記録を終了し、3)の画面に戻ります。新たに利用する画面を表示して、【●REC】ボタンをクリックすると別のブロックの作成を開始します。

※【終了】ボタンをクリックし記録を終了すると、「ノーマル」モードの場合とは異なり、自動的に作成したブロックが保存されます。(＜コンテンツ編集＞画面の【制作ブロック一覧】エリアに登録されます。)

⑤



全てのブロックの作成が終了したら、ThinkBoard 専用操作バーの【編集】ボタンをクリックして下さい。＜コンテンツ編集＞画面が表示されます。作成したブロックが【制作ブロック一覧】に登録されている事をご確認ください。

9. 制作モード (プレゼンモード)

<TOPメニュー>から選択できる制作モードには、「ノーマル」、「イージー」、「プレゼン」があります。ここでは、「プレゼン」モードについて説明します。

「プレゼン」モードの特徴	あらかじめ作成したコンテンツ(TBO-L、TBO-LN、TBO-M、TBO-MN)を、「プレゼン」モードで順次表示しながら、音声と手書き描画を記録することで、ご自身のプレゼンテーションを ThinkBoard コンテンツとして完成させる事が出来ます。
--------------	---

<操作方法>

ワード 2007 で作成したコンテンツを基に操作方法を説明していきます。

「プレゼン」モードでコンテンツを作成するには、あらかじめプレゼンや講義などで画像(背景)として用いる制作コンテンツを作成しておく必要があります。

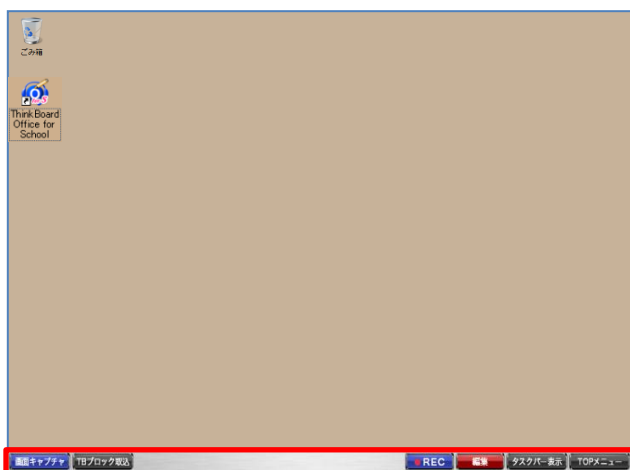
ここでは、ワード文書を基に、まず「イージー」モードで画像(背景)として用いる制作コンテンツを作ります。

①



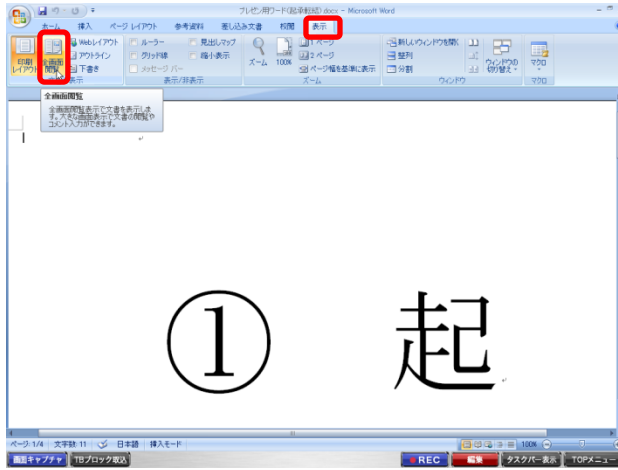
<TOPメニュー>で【制作モード】の「イージー」を選択し【制作】ボタンをクリックします。

②



「ノーマル」モードの場合とは異なり、ThinkBoard 専用操作バーに【●REC】ボタンが表示されます。

③

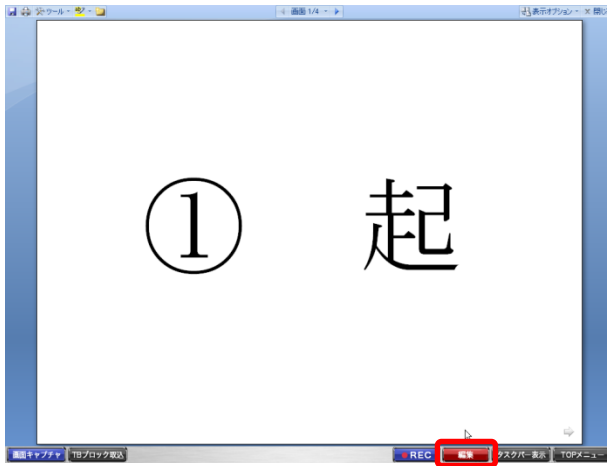


プレゼンで利用する画面を表示させます。

ワードのツールバーで、「表示」→「全画面」の順に選択します。



④

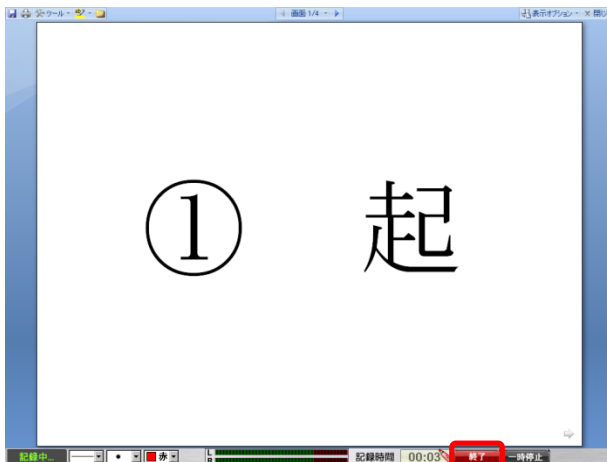


ツールバーやルーラー等が消え左のような画面になります。

ThinkBoard 専用操作バーの【●REC】ボタンをクリックし記録を開始します。ここでは、音声を入れずに1秒程度のブロックを作成します。



⑤



【終了】ボタンをクリックします。



⑥



記録が終了すると、4)の画面に戻ります。

※【終了】ボタンをクリックし記録を終了すると、「ノーマル」モードとは異なり、自動的にブロックとして保存されます。(＜コンテンツ編集＞画面の【制作ブロック一覧】画面に登録されます。)



⑦



新たに利用する画面を表示し、【●REC】ボタンをクリックすると、新しいブロックの作成を開始します。

※この作業を繰り返し、プレゼンや講義に必要な画面の数だけ制作ブロックを作成して下さい。



⑧

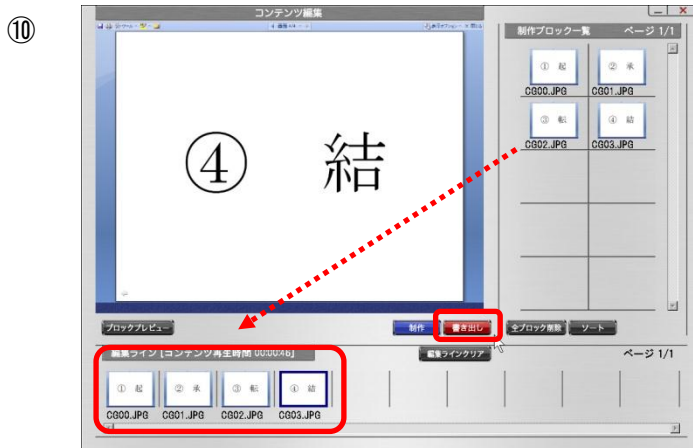


後ほど「プレゼン」モードで利用する全ての画面を(制作ブロック)の作成が終了したら、ThinkBoard 専用操作バーの【編集】ボタンをクリックして下さい。





左のように「コンテンツ編集」画面が表示されます。作成したブロックが【制作ブロック一覧】エリアに登録されている事を確認して下さい。



【編集ライン】エリアに作成した制作ブロックを再生させたい順番に並べ、【書き出し】ボタンをクリックします。

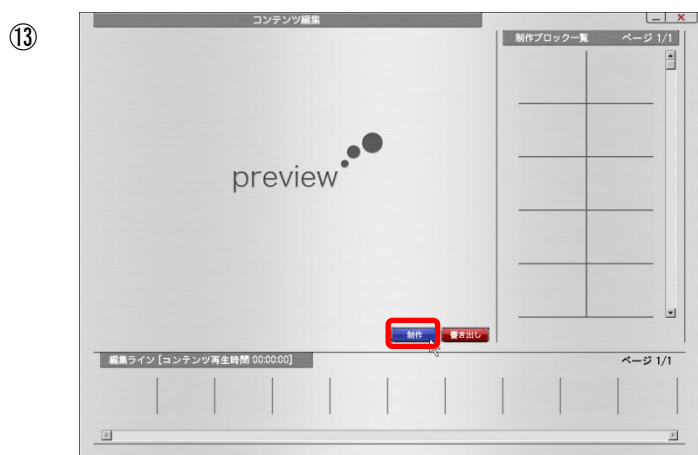


左の画面が表示されますので、書き出し形式に【TBファイル(TBO-L形式)】を選択し、ファイル名を入力して下さい。【保存】ボタンをクリックすると制作コンテンツが保存されます。



制作コンテンツが保存されると、左のように⑩の画面に戻ります。

【編集ラインクリア】と【全ブロック削除】を実行して下さい。



左の画面に戻りましたら、【制作】ボタンをクリックし、<ブロック作成画面>の ThinkBoard 専用操作バーの【TOP メニュー】ボタンをクリックして下さい。

①～⑬の作業で、プレゼンや講義などに用いる制作コンテンツの作成は終了です。

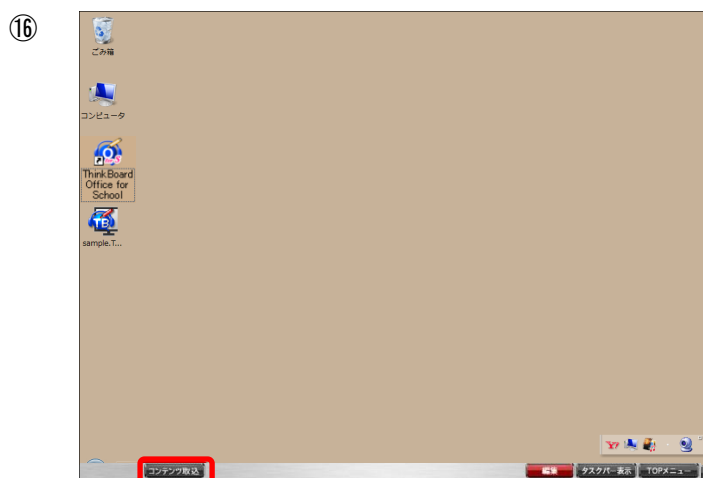
いよいよ実際のプレゼンや講義などを想定した「プレゼン」モードによる ThinkBoard コンテンツを作成します。



⑭ <TOPメニュー>で【制作モード】の「プレゼン」を選択し【制作】ボタンをクリックします。



⑮ 「ノーマル」モードの場合とは異なり、ThinkBoard 専用操作バーから【画面キャプチャ】ボタンの表示が消えます。



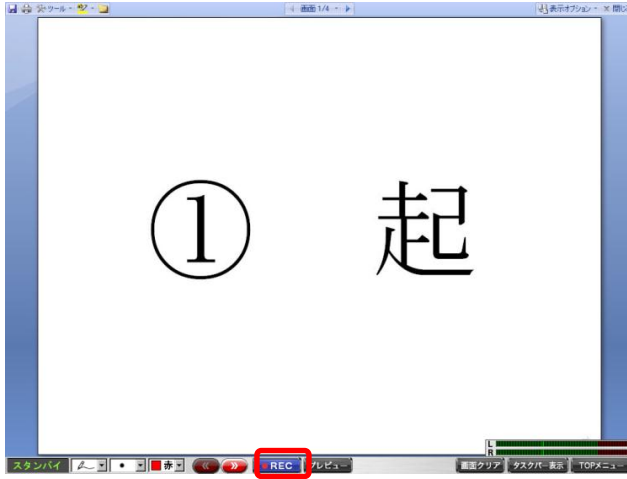
⑯ 【コンテンツ取込】ボタンをクリックします。



⑰ 作成済のTBファイルが保存されているフォルダを開くと、ファイル一覧が表示されます。利用したいTBコンテンツを選択し【開く】ボタンをクリックします。



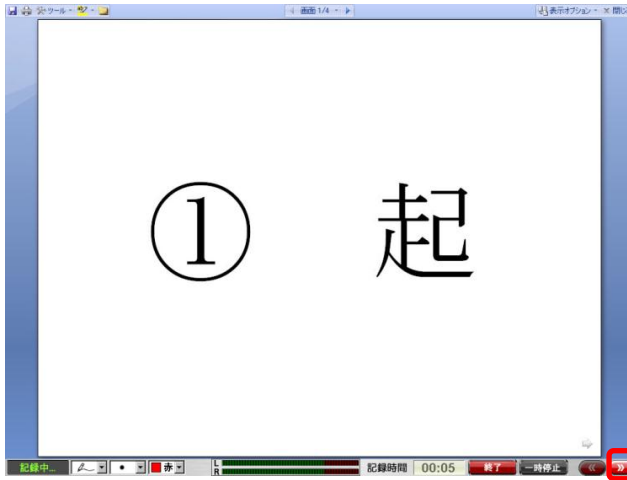
⑱



事前に準備した TB コンテンツの 1 つ目のブロックが表示されますので、【●REC】ボタンをクリックし記録を開始します。



⑲



画像を変えながら連続して記録します。画面右下の【>>】ボタンをクリックすると、次のブロックに切り替わり記録を続けます。



⑳



更に記録を続けます。
※記録を止める場合は【停止】ボタンをクリックして下さい。



・

・

・



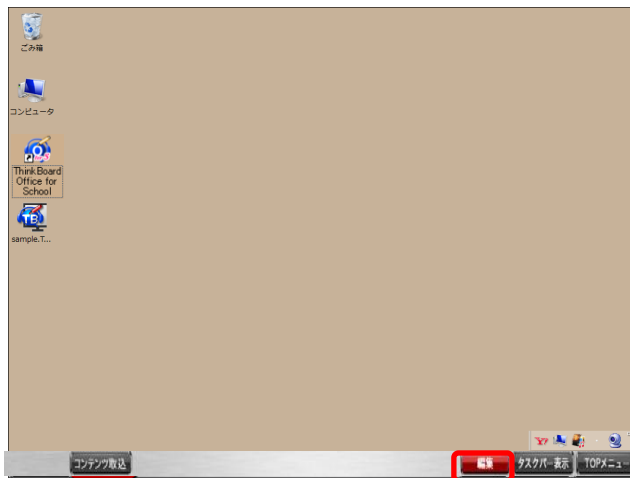
②1



この作業を最後のブロックまで繰り返して下さい。終了するときは、ThinkBoard 専用操作バーの【終了】ボタンをクリックして下さい。



②2



左の画面が表示されますので、ThinkBoard 専用操作バーの【編集】ボタンをクリックします。 <コンテンツ編集>画面に移動しますので、コンテンツ編集→書き出しの作業を行うと、「プレゼン」モードでの ThinkBoard コンテンツ作成は終了です。

10. 認証解除の方法

ThinkBoard をアンインストールすると認証が自動的に解除されます。アンインストールを実行してください。アンインストールの方法は、「12. アンインストールの手順」をご参照ください。

11. アンインストールの手順

説明に沿って、アンインストールを行ってください。

- ①Windows のコントロールパネルを表示し、[プログラムの追加と削除]をクリックします。プログラムの一覧から「ThinkBoard Office for School」を選択し[削除]([アンインストール])をクリックします。
- ②「ThinkBoard Office for School アンインストーラ」が起動しますので、アンインストーラの指示に沿ってアンインストールを完了します。

※アンインストールを行うと自動的に認証が解除されます。

※ファイアウォールの警告がでる場合は、必ず許可してください。

※Windows Vista 環境でのアンインストール方法

- ①において、「コントロールパネル」を表示し、[プログラムと機能]を選択してください。プログラムの一覧が表示されますので、一覧の中から「ThinkBoard Office for School」を選択し、アンインストールします。「ユーザーアカウント制御」のウィンドウが表示され、実行の確認を求めてきた場合は、実行しようとしているプログラム名を確認して[続行]ボタンをクリックしてください。アンインストール完了後に「プログラム互換性アシスタント」のウィンドウが表示された場合は、「このプログラムは正しくアンインストールされました」をクリックしてください。













12. ビューアーの操作方法

ThinkBoard L シリーズで制作したコンテンツを視聴するためには「ビューアー」が必要です。ThinkBoard L シリーズのすべてのエディションにはビューアーが含まれていますので、いずれかのエディションをインストールしていれば、ThinkBoard L シリーズで制作したコンテンツの視聴ができます。どのエディションもインストールしていない状態でコンテンツを再生する場合は、「ThinkBoard L シリーズ Free60(無料)」をインストールしてください。ThinkBoard 公式サイト(http://www.thinkboard.jp/tbl/l_top.html)からダウンロードできます。ページ内の[ThinkBoard Free60 ダウンロード]から、ダウンロード→インストールしてください。


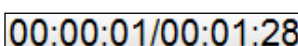










TB ファイル再生中の操作方法を説明します。

TB ファイル再生中に[F1]キーまたは、操作バーの【help】ボタンを押すと表示されます。

ThinkBoard ビューアー の操作方法

【ボタン操作】	【キー操作】
 最初ブロックへ移動	0 最初ブロックへ移動
 前ブロックへ移動	← 前ブロックへ移動
 再生	→ 次のブロックへ移動
 一時停止	↑/↓ 再生速度変更
 次ブロックへ移動	スペース 一時停止/再開
 コマ送り/コマ戻し	F1 操作方法を表示
 経過時間/全体時間	ESC 終了
 音量調整	
 等倍速	
 二倍速	
 操作方法を表示	
 終了	

< TB ファイル再生時 「操作バーのボタン」 操作時の動作 >

ボタン	ボタン操作時の動作
	右へスライドさせると「コマ送り」 / 左へスライドさせると「コマ戻し」
	経過時間 / 全体時間
	最初ブロック(シーン)に移動
	前ブロック(シーン)に1つずつ移動
	再生
	一時停止
	次ブロック(シーン)に1つずつ移動
	ボリューム調整
	等倍速で再生
	2倍速で再生
	操作方法を表示
	終了

< TB ファイル再生時 「キーボード」操作時の動作 >

キー	キー操作時の動作
[0] (ゼロ)	最初のブロック(シーン)に移動
[←]	前のブロック(シーン)に1つずつ移動
[→]	次のブロック(シーン)に1つずつ移動
[↑],[↓]	再生速度変更
スペース	一時停止 / 再開
[F1]キー	操作方法を表示
[F3]キー	表示画面の印刷
[F4]キー	表示画面のキャプチャ
[ESC]	終了

< コンテンツ再生時の右クリックメニュー >

メニュー	メニュー操作時の動作
フルスクリーンモード* (ウインドウモード)	再生画面が最大化され、Windows のタスクバーや最小化、最大化、閉じるボタンが表示されなくなります。(ThinkBoard ビューアーの操作ボタンは表示されています。) ※画面表示が「フルスクリーンモード」のときは、右クリックメニューの表示は「ウインドウモード」になります。ウインドウモードで画面表示しているときは、マウスカースルで表示画面のサイズを変更することができます。
チャプター	お好みのブロック(シーン)に移動します。
最初のブロックへ移動	最初のブロック(シーン)に移動します。
前のブロックへ移動	前のブロック(シーン)に1つずつ移動します。
次のブロックへ移動	次のブロック(シーン)に1つずつ移動します。
一時停止 / 再生	一時停止、再開をします。
画面キャプチャ	表示画面をキャプチャします。
画面印刷	表示画面の印刷をします。
操作方法	ビューアーの操作方法を表示します。
通常再生	等倍速で再生します。
2倍速再生	2倍速で再生します。
連続再生	TB ファイルを連続して再生します。
バージョン情報	ThinkBoard ビューアーのバージョン情報を表示します。
終了	TB ファイルの再生を終了します。

このページは空白です。



開発：株式会社 教育情報サービス

電話：0985-35-7851（受付時間 10：00～17：30 ※土日祝日および弊社休業日を除く）

Eメール：info@e-kjs.jp

ThinkBoard オフィシャルサイト

<http://thinkboard.jp/>